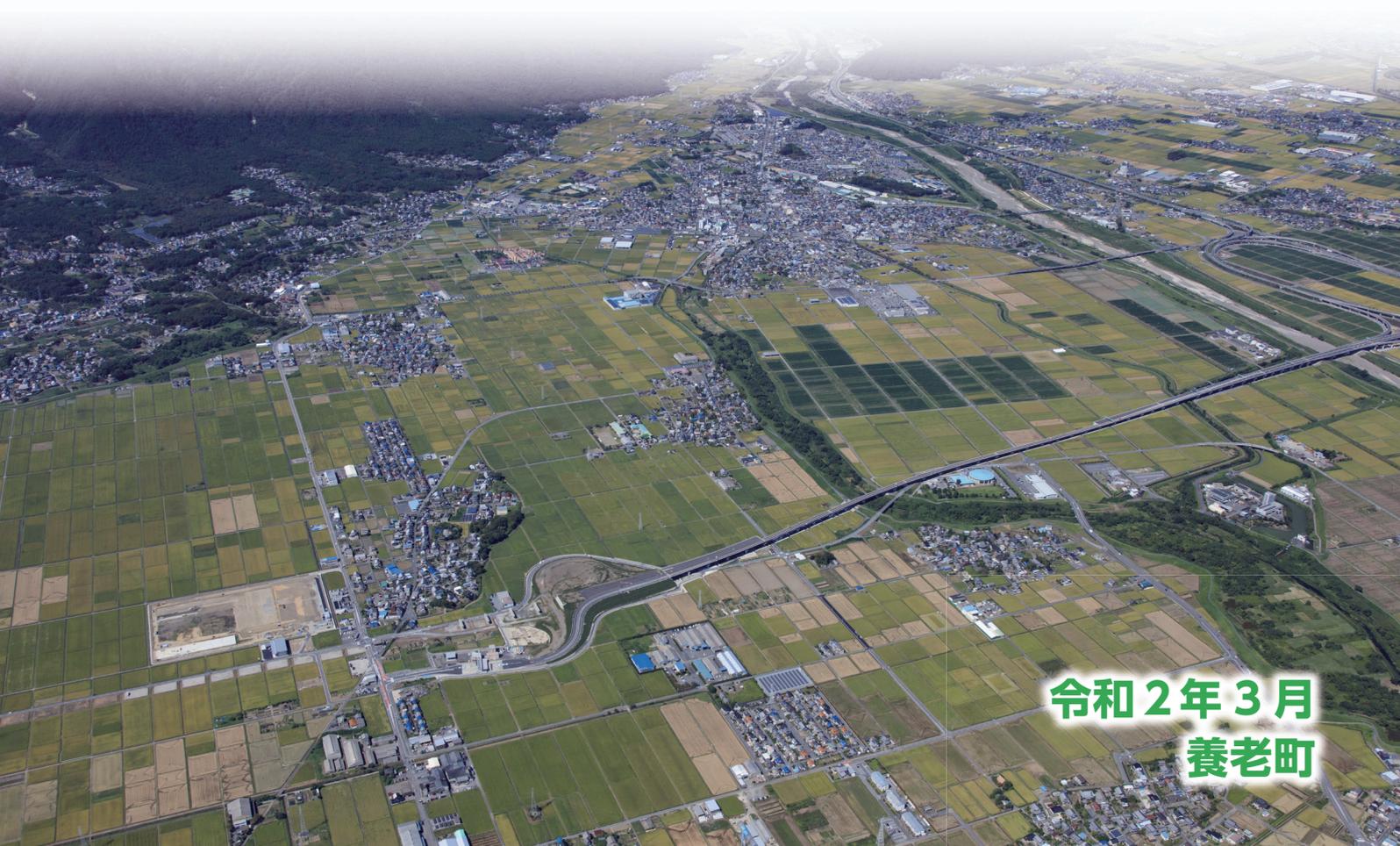


# 養老町都市計画 マスタープラン



令和2年3月  
養老町



ごあいさつ



～ 地域性を大切にする快適で活気に満ちたまち養老を目指して ～

まちづくりの基本的な方針である、現行計画「養老町都市計画マスタープラン」を平成17年3月に策定以後、時代が「平成」から「令和」に変わり、少子高齢化や人口減少などの一層の進行により社会情勢は急激に変化しております。本町においては、平成29年に東海環状自動車道養老インターチェンジ、平成30年には名神高速道路養老サービスエリアスマートインターチェンジの開通など、本町を取り巻く環境が大きく変化しました。

これらの変化に対して適切に対応し、本町が持続的に発展していくために、都市計画マスタープランを改定することとしました。

今回の改定では、将来像として「地域性を大切にする快適で活気に満ちたまち 養老」を掲げ、養老公園や焼肉街道などの養老町らしさを大切にしつつ、集約型都市構造の形成により快適な住環境の確保を図るとともに、養老サービススマートインターチェンジや養老インターチェンジの開通による立地ポテンシャルを活かした活気に満ちたまちを目指してまいります。

今後とも、町民の皆様のより一層のご理解とご協力のもと、「町民が主役」の信念をわすれることなく町政運営に邁進してまいりたいと考えております。

最後に都市計画マスタープラン改定にあたり、アンケート調査等を通じ様々なご意見、ご提言していただきました町民の皆様をはじめ、真摯にご審議いただきました都市計画審議会委員ならびに関係各位に心から感謝申し上げます。

令和2年3月

養老町長 大橋 孝



# 目 次

<b>第1章 基本的事項</b> .....	<b>1</b>
1-1 都市計画マスタープランとは.....	1
1-2 改定の背景.....	1
1-3 養老町都市計画マスタープランの位置づけ.....	2
1-4 計画の構成.....	3
1-5 目標年次と対象区域.....	4
<b>第2章 まちづくりのビジョン</b> .....	<b>5</b>
2-1 都市の将来像.....	5
2-2 将来都市構造.....	15
<b>第3章 まちづくりの方針</b> .....	<b>21</b>
3-1 土地利用の方針.....	21
3-2 交通体系の方針.....	24
3-3 公園・緑地整備の方針.....	27
3-4 下水道整備の方針.....	30
3-5 その他都市施設の方針.....	32
3-6 市街地整備の方針.....	34
3-7 都市防災の方針.....	36
3-8 都市景観の方針.....	40
3-9 地域ブランドの方針.....	43

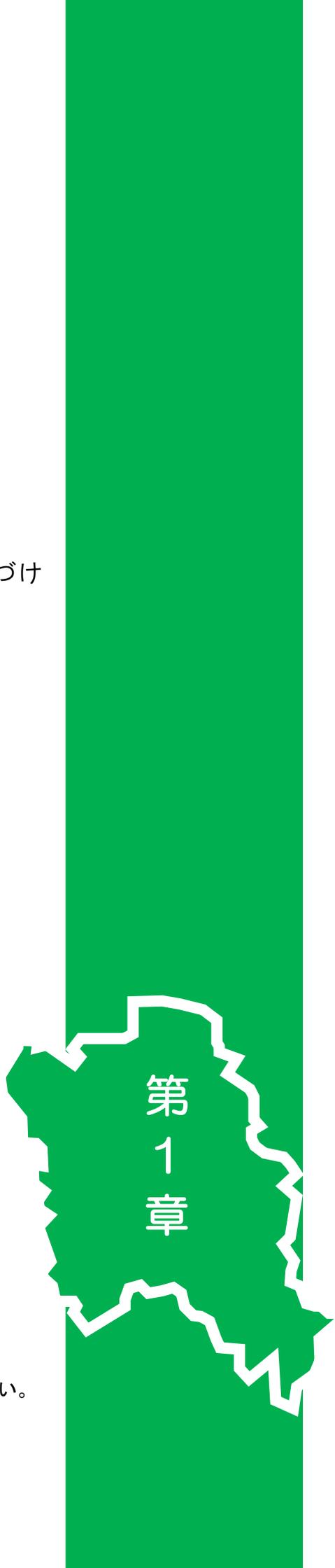


<b>第4章 地域別構想</b> .....	<b>47</b>
4-1 地域別構想の役割.....	47
4-2 北部地域.....	48
4-3 南部地域.....	55
4-4 養老地域.....	62
<b>用語集</b> .....	<b>69</b>



## 第1章 基本的事項

- 1-1 都市計画マスタープランとは
- 1-2 改定の背景
- 1-3 養老町都市計画マスタープランの位置づけ
- 1-4 計画の構成
- 1-5 目標年次と対象区域



## 第1章

※都市計画用語等については、巻末の用語集をご参照ください。



# 第1章 基本的事項

## 1-1 都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランは、1992年の都市計画法の改正によって規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」（都市計画法第18条の2）として定める計画です。

都市計画マスタープランは、住民参加のもとに市町村自らがまちづくりのビジョンを確立し、将来像やまちづくりの目標を実現するために土地利用や都市施設の方針等を明らかにする計画であり、まちづくりの長期的・総合的な指針としての役割を果たします。

## 1-2 改定の背景

養老町（以下、「本町」という。）では、2005年3月に現行計画を策定し、都市計画を進めてきました。現行計画は、2005年から概ね10年間を計画期間としており、その間に本格的な人口減少社会の到来や少子高齢化の一層の進行、情報通信技術（ICT）の進展など、社会情勢は大きく変化しました。

今回、現行計画が改定の時期を迎え、上位計画である養老町総合計画や養老都市計画区域マスタープランも見直しの時期となり、さらに、2017年10月に東海環状自動車道養老インターチェンジ（以下、「養老IC」という。）、2018年6月に名神高速道路養老サービスエリアスマートインターチェンジ（以下、「養老SAスマートIC」という。）が開通し、交通立地環境も大幅に変化しました。

これらを踏まえて、本町が持続的に発展していくためには、魅力的なまちづくりが求められています。

そこで、新たな都市計画・まちづくりの方針を明らかにするべく、養老町都市計画マスタープラン（以下、「本計画」という。）を改定することとしました。

### ■本計画の改定背景

養老SAスマートIC・養老ICの開通

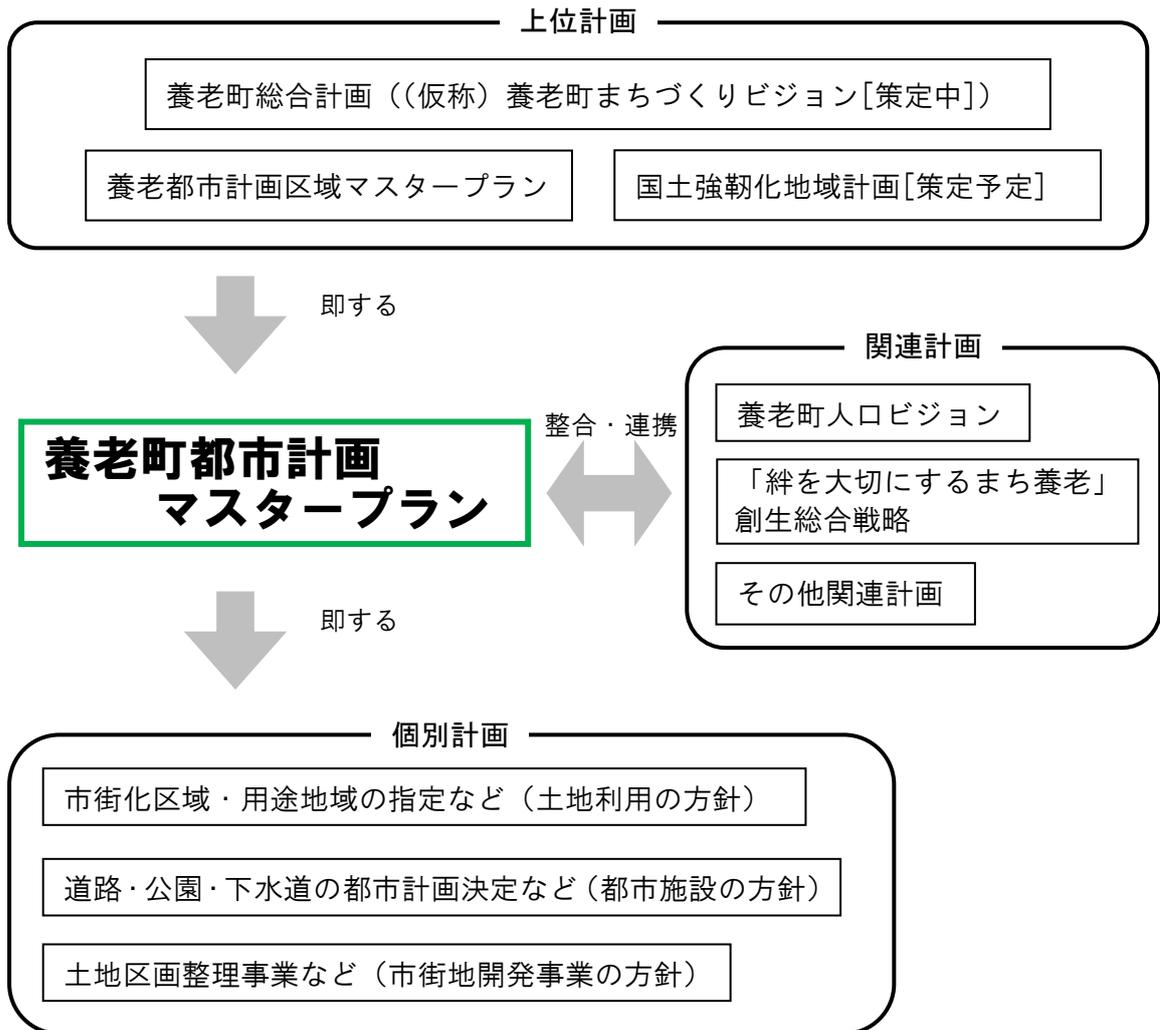
社会情勢の変化

総合計画・区域マスタープランの見直し

現行計画の計画期間

### 1-3 養老町都市計画マスタープランの位置づけ

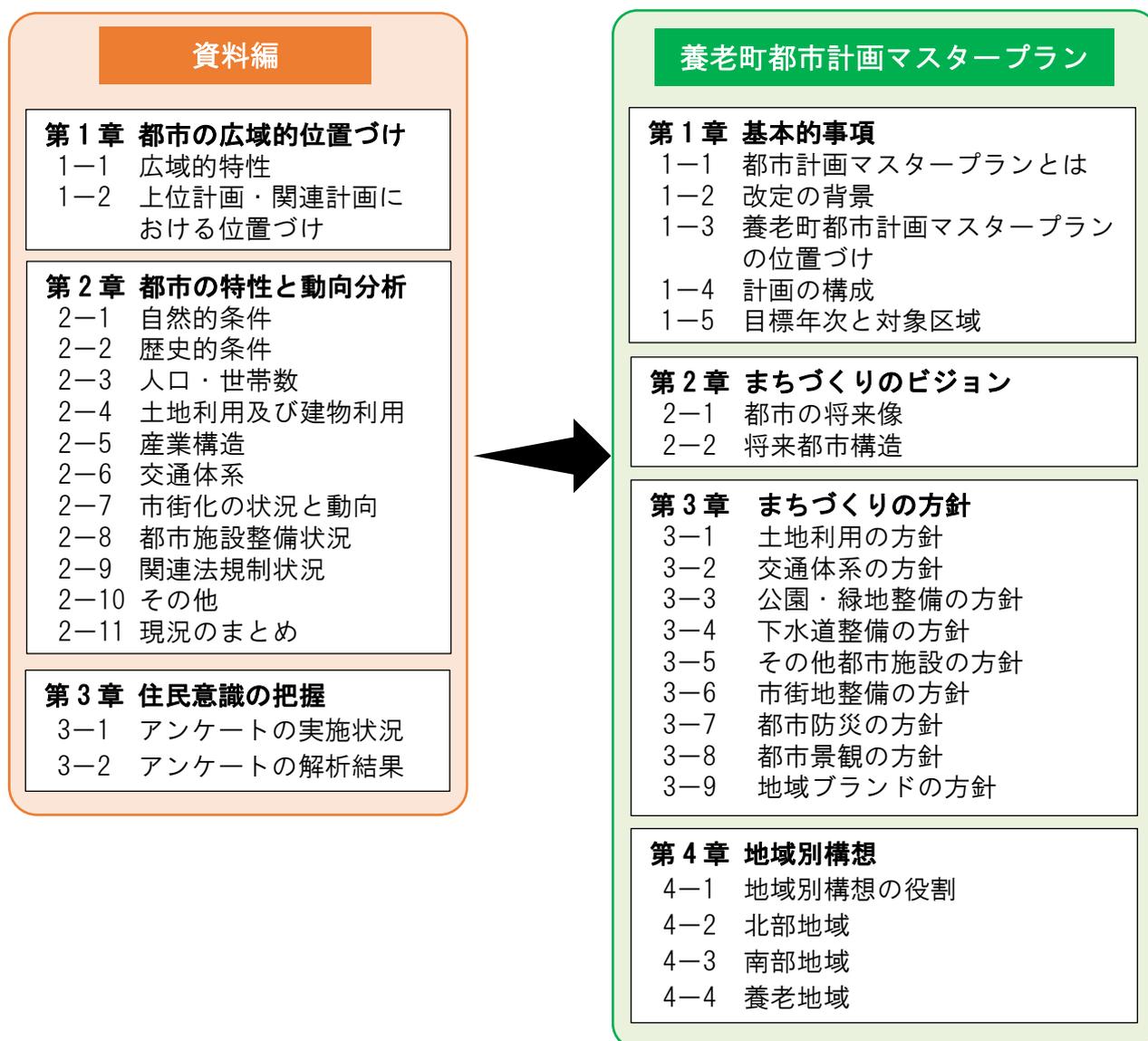
本計画は、養老町総合計画（（仮称）養老町まちづくりビジョン）や養老町都市計画区域マスタープランなどの上位計画を踏まえ、本町の将来像や土地利用の方針を明らかにするとともに、道路や公園、下水道等の都市施設、自然環境や景観といった都市計画・まちづくりに関する様々な分野について、その整備や保全の総合的な指針としての役割を果たします。



## 1-4 計画の構成

本計画は、都市の広域的な位置づけや特性、動向などを整理した「資料編」の結果を踏まえて作成しています。

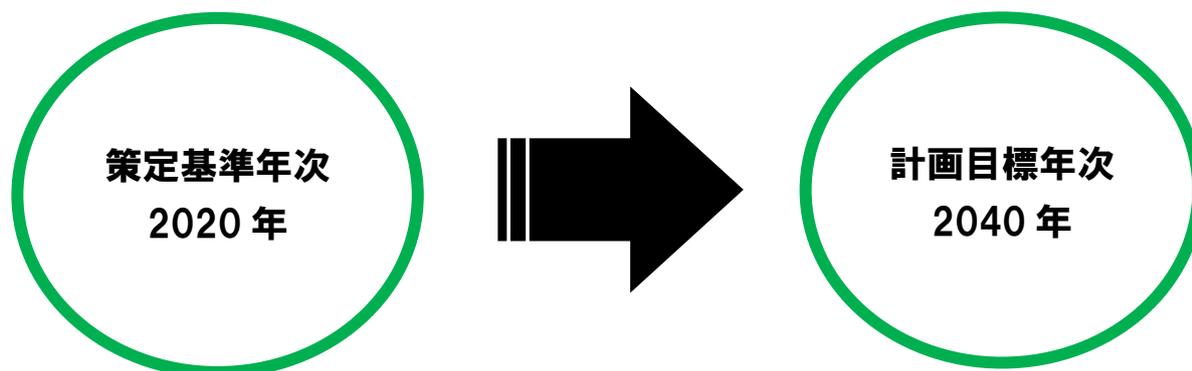
また、本計画は、第1章「基本的事項」にはじまり、都市全体の観点から目指す将来像や分野ごとの方針を示す第2章「まちづくりのビジョン」、第3章「まちづくりの方針」、地域ごとに考え方や方針を示す第4章「地域別構想」で構成しています。



## 1-5 目標年次と対象区域

都市計画マスタープランは、長期的な展望の下でまちづくりを考える必要があるため、本計画は策定年次の2020年を基準として、20年後の2040年を目標年次とします。ただし、上位計画の見直しや社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて本計画を見直すこととします。

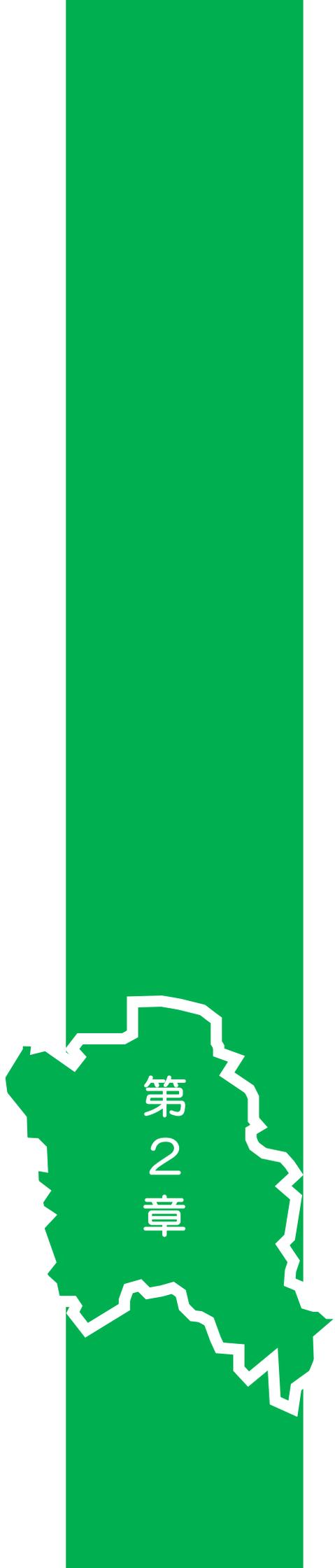
また、本計画の対象区域は、本町南西部の山林の一部に都市計画区域外がありますが、本町全域（72.29km<sup>2</sup>）とします。



## 第2章 まちづくりのビジョン

2-1 都市の将来像

2-2 将来都市構造



## 第2章



## 第2章 まちづくりのビジョン

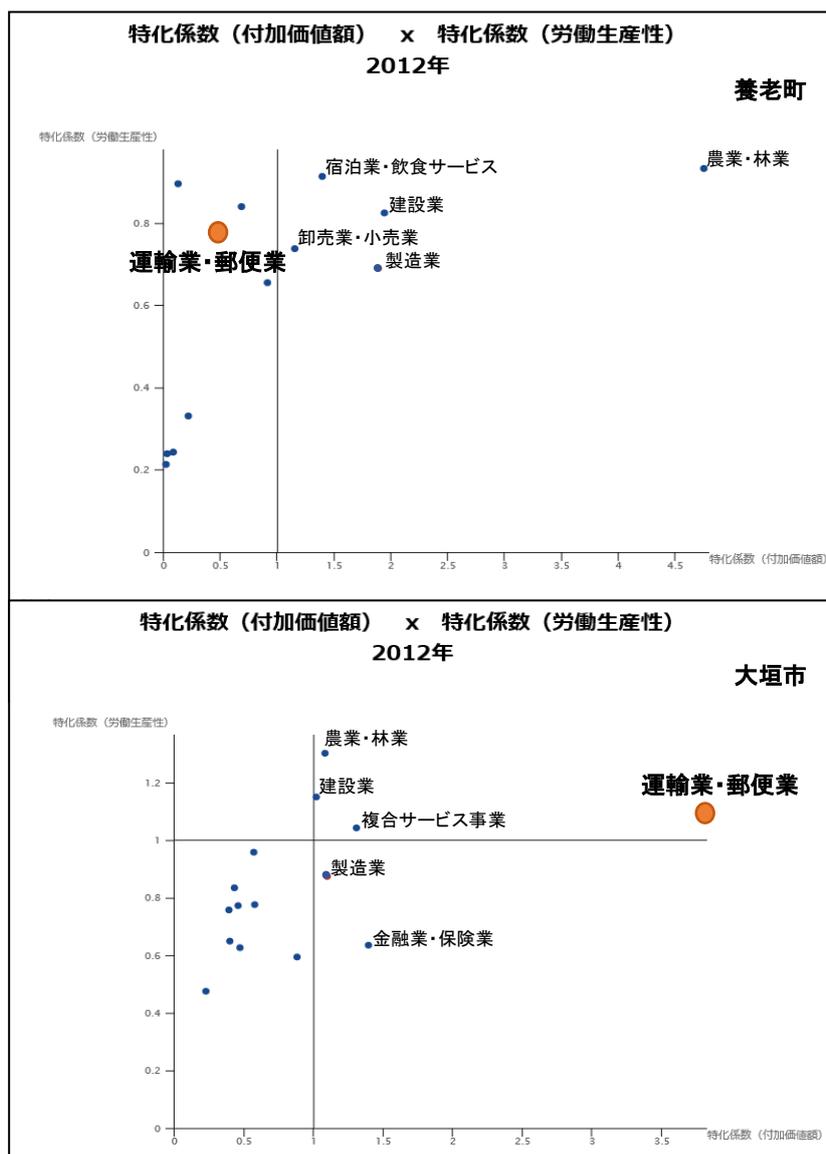
### 2-1 都市の将来像

#### 1. 広域的な都市構造の考え方

##### (1) 現在の産業構造

本町には国土軸である名神高速道路が通っていますが、企業立地が少なく、その恩恵は限定的となっています。そこで、同じく名神高速道路が通り、本町と経済・産業の結び付きが強い大垣市の産業構造と比較すると、本町は運輸業等流通系機能の拡張余地は十分にあると考えられます。

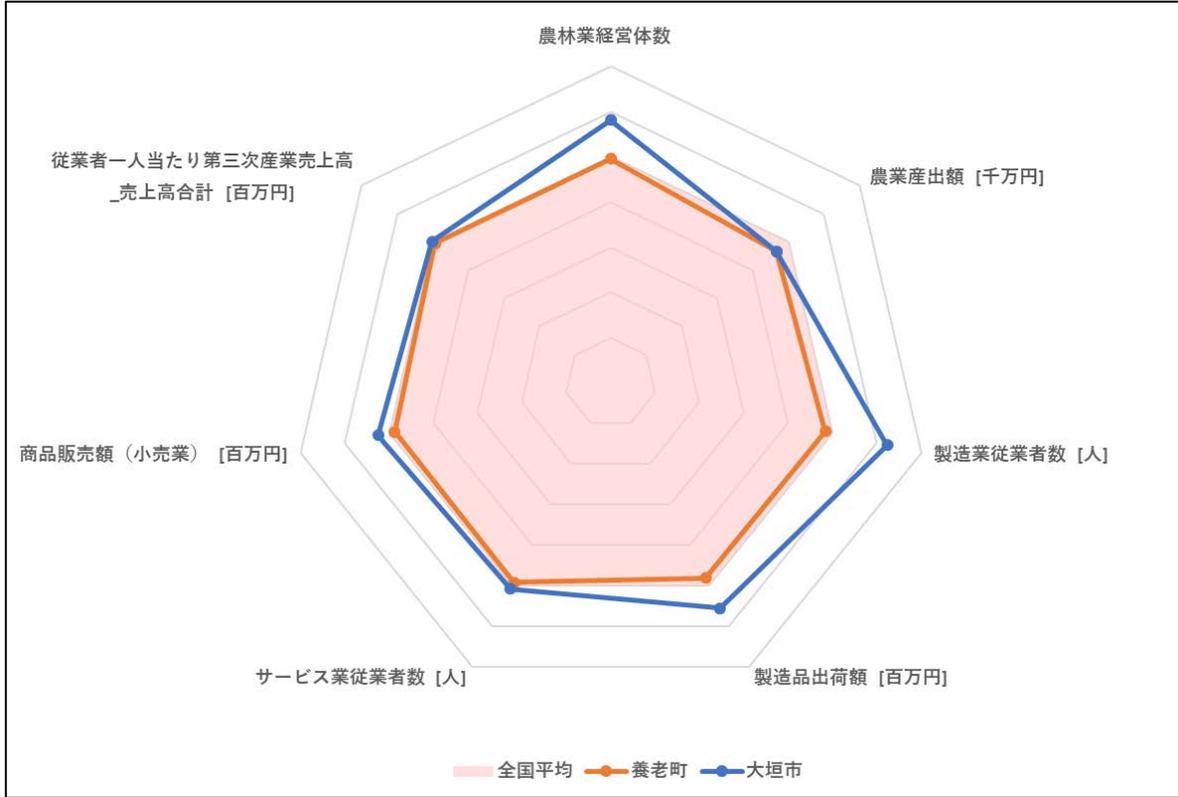
図 養老町と大垣市の産業構造の比較



【資料：RESAS】

また、製造業に関する指標についても大垣市と顕著な差があり、強化を図る必要があります。

図 都市モニタリングシートによる養老町と大垣市の比較



指標項目	全国平均	養 老 町		大 垣 市	
		データ	偏差値	データ	偏差値
農林業経営体数	817.0	772.0	49.5	1,627.0	58.2
農業産出額 [千万円]	513.9	268.0	46.7	266.0	46.7
製造業従業者数 [人]	4,306.7	2,845.0	48.4	15,635.0	62.4
製造品出荷額 [百万円]	183,793.1	80,348.0	48.1	472,584.0	55.4
サービス業従業者数 [人]	2,762.4	571.0	49.1	4,446.0	50.7
商品販売額 (小売業) [百万円]	75,769.9	30,428.0	48.8	164,803.0	52.4
従業者一人当たり第三次産業売上高 売上高合計 [百万円]	598,415.2	82,433.0	49.4	790,041.0	50.2

※偏差値は、全国平均を50とした値とします。

【資料：国土交通省都市モニタリングシート】

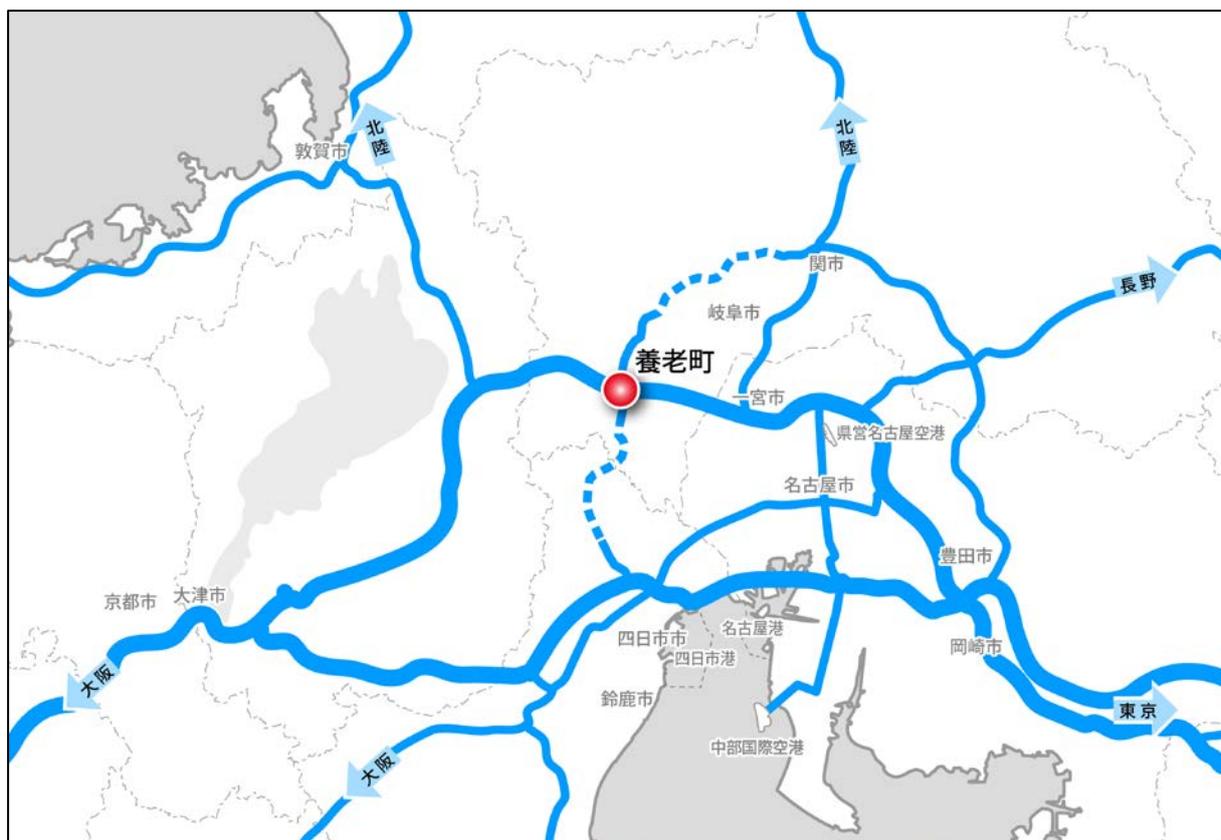
## (2) 将来の広域都市構造

将来的に東海環状自動車道・新名神高速道路が整備されることにより、本町から名古屋港・四日市港など伊勢湾臨海部へのアクセスや、京都・大阪など関西方面へのアクセスが飛躍的に向上します。

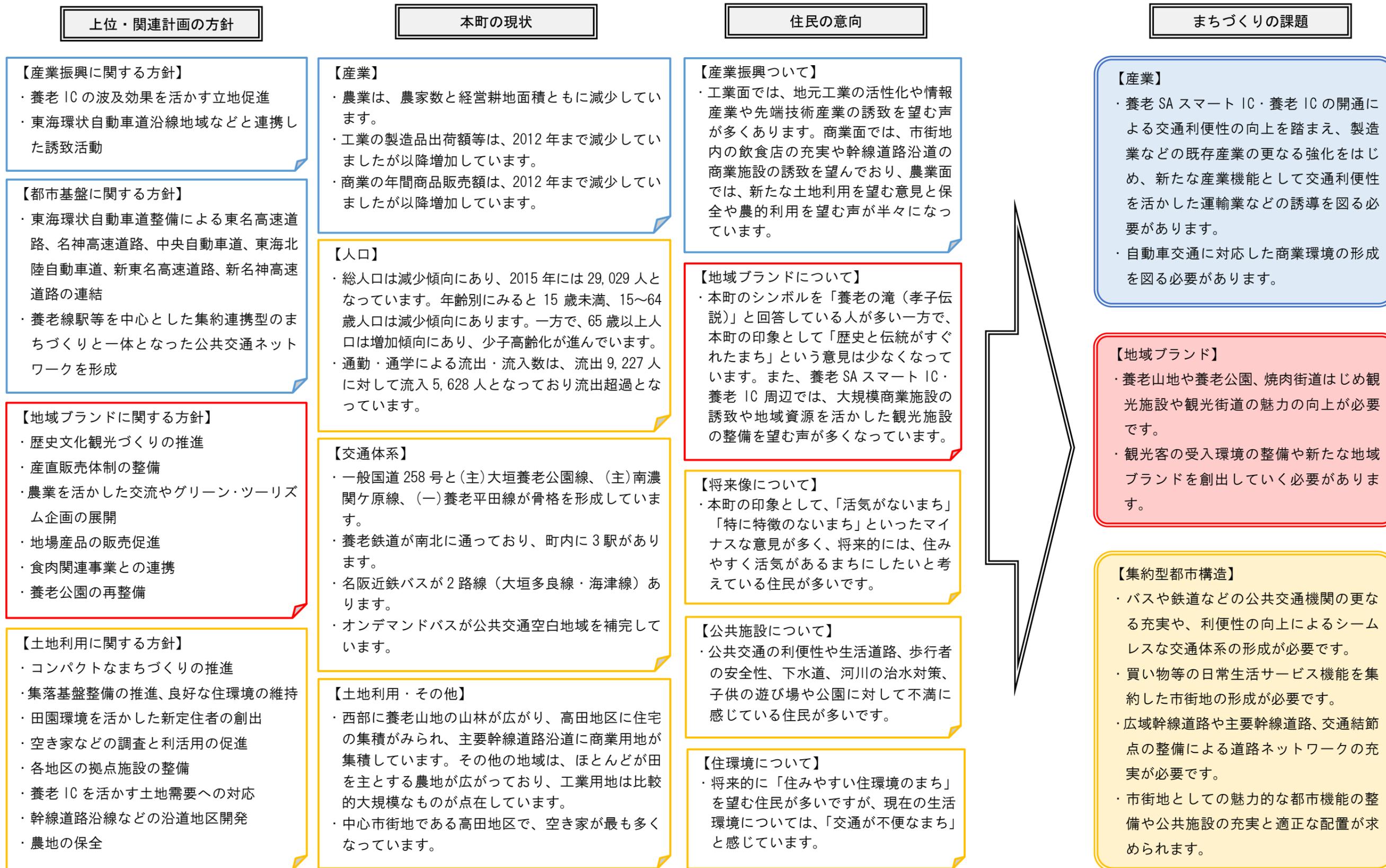
また、国土軸の名古屋-大阪間の複線化により、現状でみられる慢性的な渋滞の解消、時間距離の短縮等が見込まれます。それによって、処理能力の高まった国土軸と東海環状自動車道との交差部に位置する本町が、拠点としての重要性が飛躍的に高まることが予想されます。

そのため、将来的な広域都市構造を踏まえると、本町ではこの立地ポテンシャルを活かした製造の拠点、あるいは流通上のハブなど、日本の産業振興における拠点としての役割が期待されます。

図 将来広域交通ネットワーク



2. まちづくりの課題



上位・関連計画の方針

**【産業振興に関する方針】**  
 ・ 養老 IC の波及効果を活かす立地促進  
 ・ 東海環状自動車道沿線地域などと連携した誘致活動

**【都市基盤に関する方針】**  
 ・ 東海環状自動車道整備による東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道、新東名高速道路、新名神高速道路の連結  
 ・ 養老線駅等を中心とした集約連携型のまちづくりと一体となった公共交通ネットワークを形成

**【地域ブランドに関する方針】**  
 ・ 歴史文化観光づくりの推進  
 ・ 産直販売体制の整備  
 ・ 農業を活かした交流やグリーン・ツーリズム企画の展開  
 ・ 地場製品の販売促進  
 ・ 食肉関連事業との連携  
 ・ 養老公園の再整備

**【土地利用に関する方針】**  
 ・ コンパクトなまちづくりの推進  
 ・ 集落基盤整備の推進、良好な住環境の維持  
 ・ 田園環境を活かした新定住者の創出  
 ・ 空き家などの調査と活用の促進  
 ・ 各地区の拠点施設の整備  
 ・ 養老 IC を活かす土地需要への対応  
 ・ 幹線道路沿線などの沿道地区開発  
 ・ 農地の保全

本町の現状

**【産業】**  
 ・ 農業は、農家数と経営耕地面積ともに減少しています。  
 ・ 工業の製造品出荷額等は、2012 年まで減少していましたが以降増加しています。  
 ・ 商業の年間商品販売額は、2012 年まで減少していましたが以降増加しています。

**【人口】**  
 ・ 総人口は減少傾向にあり、2015 年には 29,029 人となっています。年齢別にみると 15 歳未満、15~64 歳人口は減少傾向にあります。一方で、65 歳以上人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。  
 ・ 通勤・通学による流出・流入数は、流出 9,227 人に対して流入 5,628 人となっており流出超過となっています。

**【交通体系】**  
 ・ 一般国道 258 号と(主)大垣養老公園線、(主)南濃関ヶ原線、(一)養老平田線が骨格を形成しています。  
 ・ 養老鉄道が南北に通っており、町内に 3 駅があります。  
 ・ 名阪近鉄バスが 2 路線(大垣多良線・海津線)あります。  
 ・ オンデマンドバスが公共交通空白地域を補完しています。

**【土地利用・その他】**  
 ・ 西部に養老山地の山林が広がり、高田地区に住宅の集積がみられ、主要幹線道路沿道に商業用地が集積しています。その他の地域は、ほとんどが田を主とする農地が広がっており、工業用地は比較的大規模なものが点在しています。  
 ・ 中心市街地である高田地区で、空き家が最も多くなっています。

住民の意向

**【産業振興について】**  
 ・ 工業面では、地元工業の活性化や情報産業や先端技術産業の誘致を望む声が多くあります。商業面では、市街地内の飲食店の充実や幹線道路沿道の商業施設の誘致を望んでおり、農業面では、新たな土地利用を望む意見と保全や農的利用を望む声が半々になっています。

**【地域ブランドについて】**  
 ・ 本町のシンボルを「養老の滝(孝子伝説)」と回答している人が多い一方で、本町の印象として「歴史と伝統がすぐれたまち」という意見は少なくなっています。また、養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺では、大規模商業施設の誘致や地域資源を活かした観光施設の整備を望む声が多くなっています。

**【将来像について】**  
 ・ 本町の印象として、「活気がないまち」「特に特徴のないまち」といったマイナスな意見が多く、将来的には、住みやすく活気があるまちにしたいと考えている住民が多いです。

**【公共施設について】**  
 ・ 公共交通の利便性や生活道路、歩行者の安全性、下水道、河川の治水対策、子供の遊び場や公園に対して不満に感じている住民が多いです。

**【住環境について】**  
 ・ 将来的に「住みやすい住環境のまち」を望む住民が多いですが、現在の生活環境については、「交通が不便なまち」と感じています。

まちづくりの課題

**【産業】**  
 ・ 養老 SA スマート IC・養老 IC の開通による交通利便性の向上を踏まえ、製造業などの既存産業の更なる強化をはじめ、新たな産業機能として交通利便性を活かした運輸業などの誘導を図る必要があります。  
 ・ 自動車交通に対応した商業環境の形成を図る必要があります。

**【地域ブランド】**  
 ・ 養老山地や養老公園、焼肉街道はじめ観光施設や観光街道の魅力の向上が必要です。  
 ・ 観光客の受入環境の整備や新たな地域ブランドを創出していく必要があります。

**【集約型都市構造】**  
 ・ バスや鉄道などの公共交通機関の更なる充実や、利便性の向上によるシームレスな交通体系の形成が必要です。  
 ・ 買い物等の日常生活サービス機能を集約した市街地の形成が必要です。  
 ・ 広域幹線道路や主要幹線道路、交通結節点の整備による道路ネットワークの充実が必要です。  
 ・ 市街地としての魅力的な都市機能の整備や公共施設の充実と適正な配置が求められます。

### 3. 基本理念と将来像

本計画は、「養老町第五次総合計画」に即して策定するため、「養老町第五次総合計画」において掲げる基本理念や目指すまちの姿を踏まえて、都市計画の方向性を明らかにします。

そのため、基本理念は「養老第五次総合計画」を踏襲し、以下のとおりとします。

〈基本理念〉

#### みんなで力をあわせる絆のまちづくり

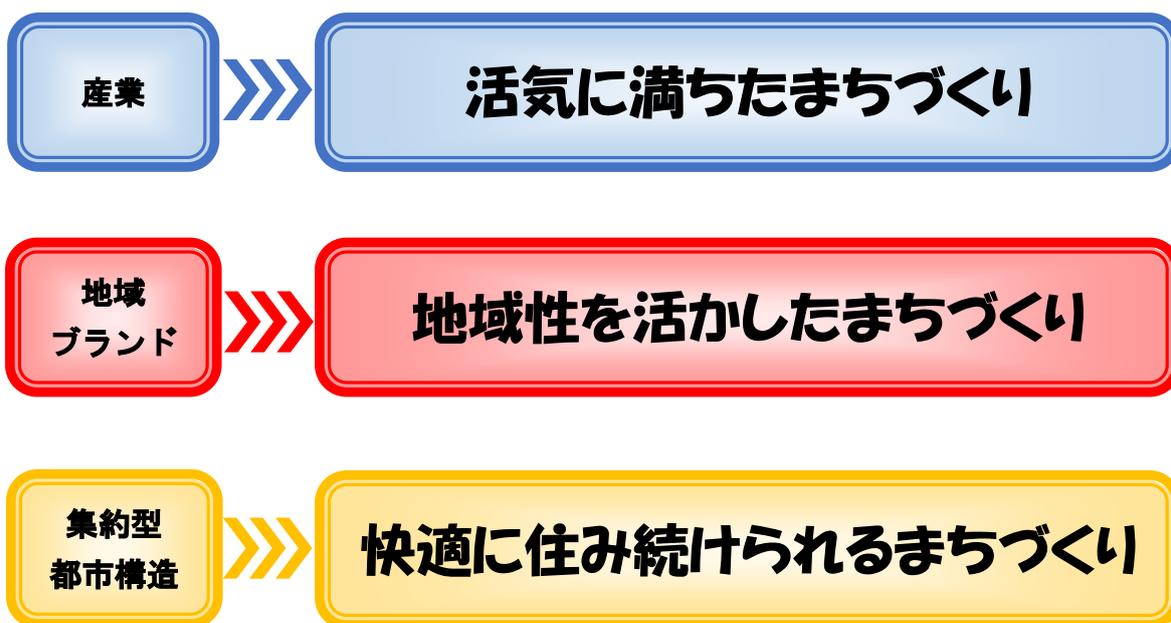
また、将来像については、「養老公園」や「焼肉街道」などの本町らしさを大切にしつつ、集約型都市構造の形成により快適な住環境の確保や、養老 SA スマート IC・養老 IC の開通による立地ポテンシャルを活かした活気に満ちたまちを目指すものとし、以下のとおりとします。

〈将来像〉

#### 地域性を大切にする快適で活気に満ちたまち 養老

### 4. まちづくりの目標

「産業」、「地域ブランド」、「集約型都市構造」の3つの観点で整理したまちづくりの課題や将来像をもとにまちづくりの目標を以下のとおりとします。



## 5. まちづくりの考え方

### (1) 産業振興・・・「活気に満ちたまちづくり」

本町では、近年、養老 SA スマート IC・養老 IC の開通により交通利便性が格段に向上しました。今後、東海環状自動車道が全区間開通することで、広域都市構造の中で重要な位置づけとなります。

そのため本町においては、養老 SA スマート IC・養老 IC の開通による立地ポテンシャルを活かして、養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺での産業拠点の整備を推進するとともに、製造業などの既存工業の振興や、運輸業などの新規産業の立地誘導を図ります。

また、幹線道路沿道については、自動車交通に対応した商業環境の形成を進め、産業振興を図り、「活気に満ちたまちづくり」を進めます。

### (2) 地域ブランドの向上・・・「地域性を活かしたまちづくり」

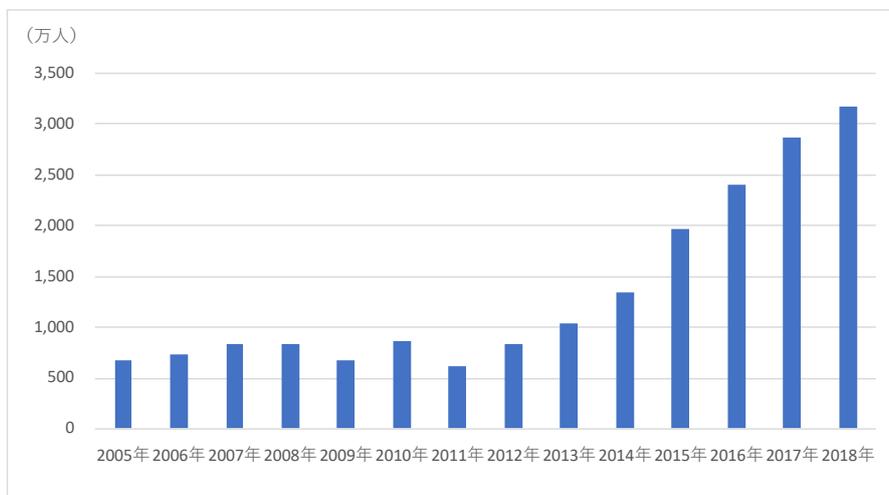
本町には、年間 100 万人を超える観光客が訪れる養老公園がありますが、国内人口は年々減少傾向にあり、国内観光客、ひいては養老公園の観光客も減少することが予想されます。

一方で、2018 年に訪日外国人客が年間 3,000 万人を超え、インバウンド需要が高まっていることから、今後は国内観光客だけではなく、外国人観光客にもスポットを当てた受入環境の整備が必要となります。

本町においては、自然を感じることのできる養老山地、象鼻山や養老公園、特産である食肉産業を活かした焼肉街道などの観光地としての魅力の向上や、観光地周辺での受入環境の整備を進めます。また、養老 IC 周辺では、観光客向けの商業環境を整備するため、食肉産業施設や農業加工施設、農家レストランなどの 6 次産業施設や道の駅の誘導も図ります。

これらにより、地域の特性を最大限に活かしたまちづくりを進めつつ、インバウンド需要に対応した、「地域性を活かしたまちづくり」を進めます。

図 国内インバウンドの推移



【資料：日本政府観光局（JNTO）】

### (3) 集約型都市構造の形成・・・「快適に住み続けられるまちづくり」

本町の人口は年々減少しており、財政的に投資的経費の比率を減少せざるを得ず、新たな市街地形成に対する公共投資が難しくなっています。

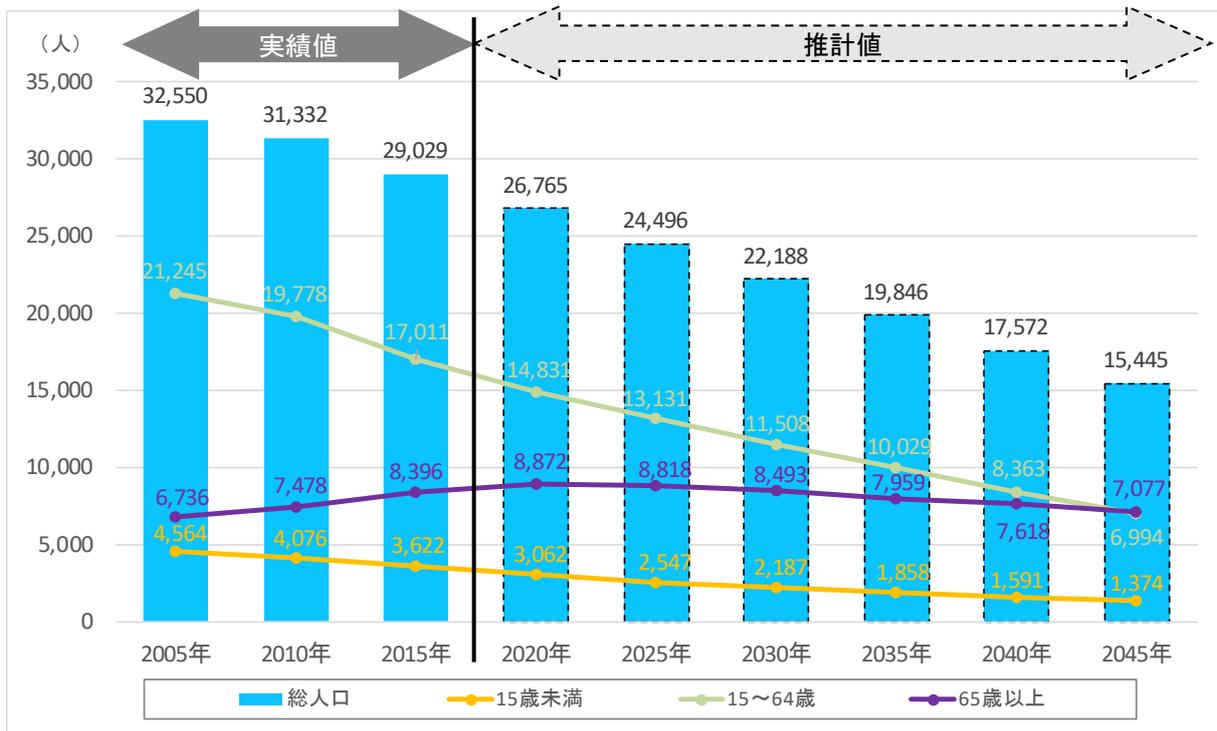
そのため、今後は無秩序な市街地の拡大を抑制することを前提として、中心市街地である高田地区については、空き地・空き家を利活用し、市街地の再生を図ります。その他に、公共交通の確保された養老駅・烏江駅周辺では、市街地を維持・誘導していきます。

また、本町の高齢化率は28.9%と超高齢化が進行していることから、これからのまちづくりは高齢者にも配慮して進めていく必要があります。

そのため、高齢者にとっても過ごしやすいまちを目指し、自動車交通に依存した状況からの脱却を目的として、シームレスな公共交通ネットワークの形成を図り、「快適に住み続けられるまちづくり」を進めます。

6. 目標人口

**目標人口**  
**20,000 人** (目標年次 2040 年)



【資料：国立社会保障人口問題研究所】

本町の人口は年々減少しており、2015年時点で29,029人となっています。国立社会保障人口問題研究所の推計によると、今後も減少が続き目標年次の2040年には、17,572人になると予測されています。

また、年齢別人口については、2015年と2040年を比較すると、15歳未満の年少人口と15~64歳の生産年齢人口は約半数に減少する見込みです。一方、総人口に占める65歳以上の老年人口の割合は増加する見込みとなっています。

そのため、今後は養老SAスマートIC・養老ICを活かした産業振興による就業場所の増加により、人口増加を目指し、2040年の目標人口を20,000人と設定します。

## 2-2 将来都市構造

### 1. 集約型都市構造の形成

基本的には、無秩序な市街地の拡大を抑制したうえで、中心市街地では市街地の再生を図り、公共交通の確保されたゾーンである養老鉄道の駅周辺の市街地を維持・誘導するとともに、すべての住民が住みやすいと感じることのできる、集約型都市構造を目指します。

#### (1) ゾーンの設定

##### ① 中心市街地ゾーン

2000年までDIDに指定されていた美濃高田駅周辺の高田地区を中心市街地ゾーンと位置づけます。

人口減少に伴いDIDの指定から外れたものの、本町の中心地であることから公共施設や道路網等が充実しています。そこで、既存ストックや空き地・空き家を利活用し、中心市街地としての機能の再生を図ります。

##### ② 駅周辺の市街地ゾーン

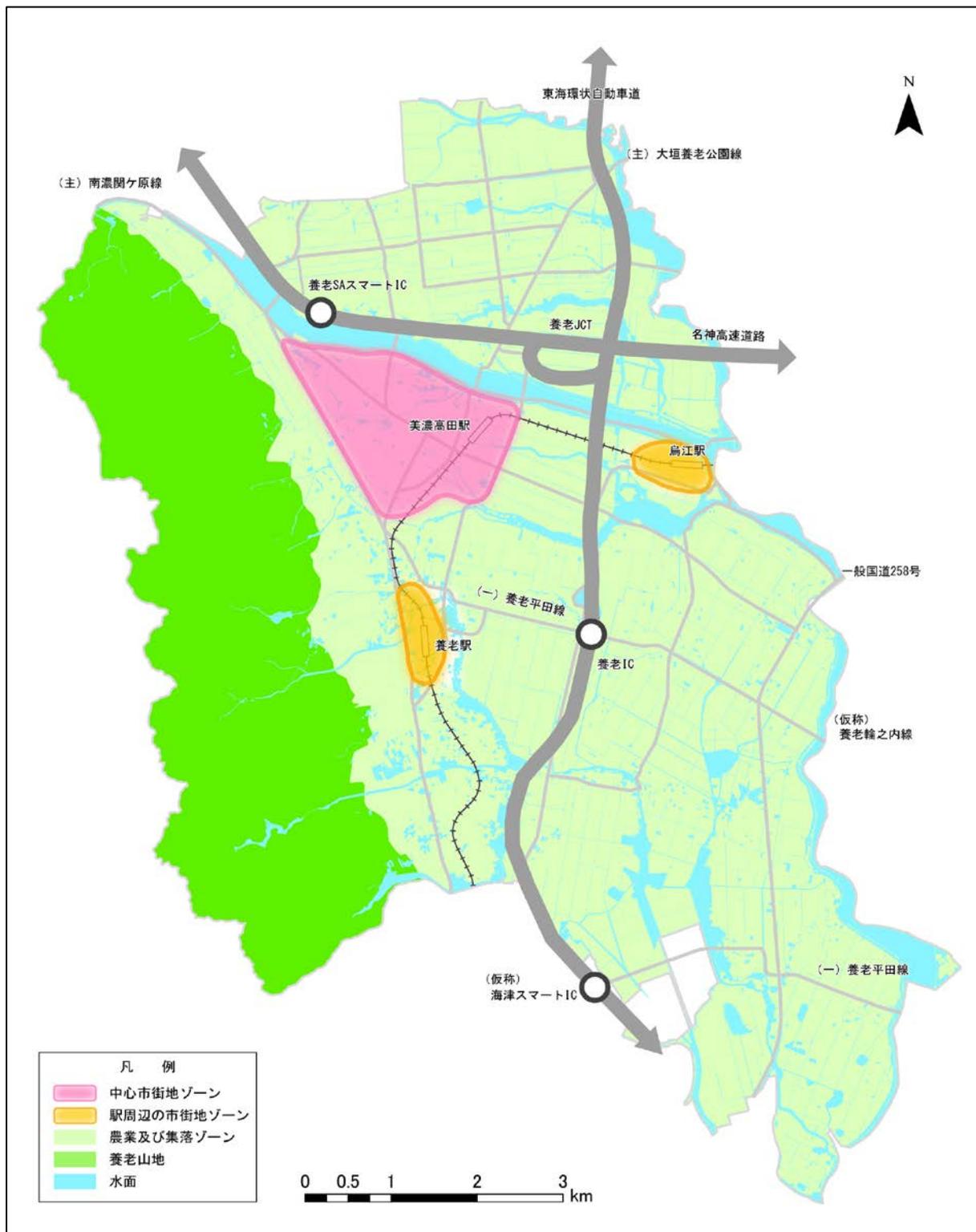
養老鉄道の養老駅・烏江駅周辺を駅周辺の市街地ゾーンと位置づけます。

本格的な超高齢社会に突入し、公共交通である鉄道やバスは住民にとっての貴重な移動手段となっています。特に、駅はバス等の交通機関が集まる交通拠点となることから、駅周辺の市街地を維持・誘導します。

##### ③ 農業及び集落ゾーン

①・②以外の居住ゾーンでは、積極的な市街化の誘導は行わず、旧来からの農村集落の既存ストックを活用して、既存集落を維持します。

図 ゾーン



## (2) 交通軸の設定

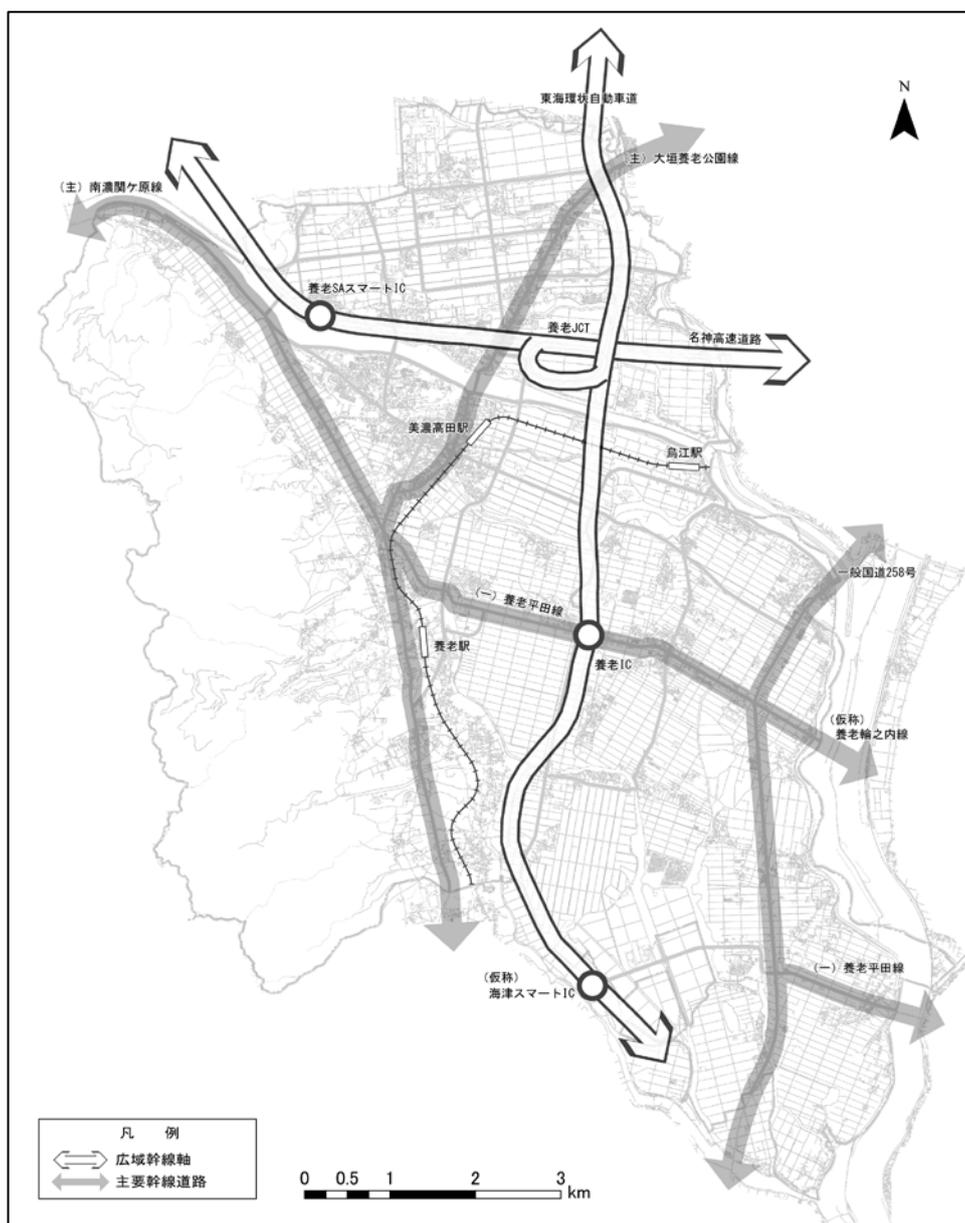
### ① 広域幹線軸

広域の地域間を連携する道路として、国土軸である名神高速道路及び東海地域の環状線である東海環状自動車道を位置づけます。

### ② 主要幹線軸

都市機能の配置と連動する道路として、桑名市や大垣市に連絡する一般国道 258 号、養老 IC のアクセス道路である(一)養老平田線、養老公園・高田地区や一般国道 21 号方面に連絡する(主)大垣養老公園線、関ヶ原町や海津市に連絡する(主)南濃関ヶ原線、その他に輪之内町に連絡する(仮称)養老輪之内線を位置づけます。

図 交通軸



### (3) 拠点及び都市構造上の軸の設定

#### ① 交通拠点

養老鉄道の駅のほか、自動運転を見据えてファーストワンマイル・ラストワンマイル用の交通機関の乗り換えの場所として、大型商業施設の駐車場等を交通拠点として位置づけます。

#### ② 観光拠点

年間 100 万人を超える観光客が訪れる養老公園や象鼻山を本町の観光拠点として位置づけ、周辺の地域も含め、観光地としての魅力の向上を図ります。

#### ③ 産業誘導拠点

養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺は、将来的に広域的な交通動線の結節点となることから産業誘導拠点として位置づけます。立地ポテンシャルを活かした製造業の拠点、流通上のハブとしての役割を果たします。

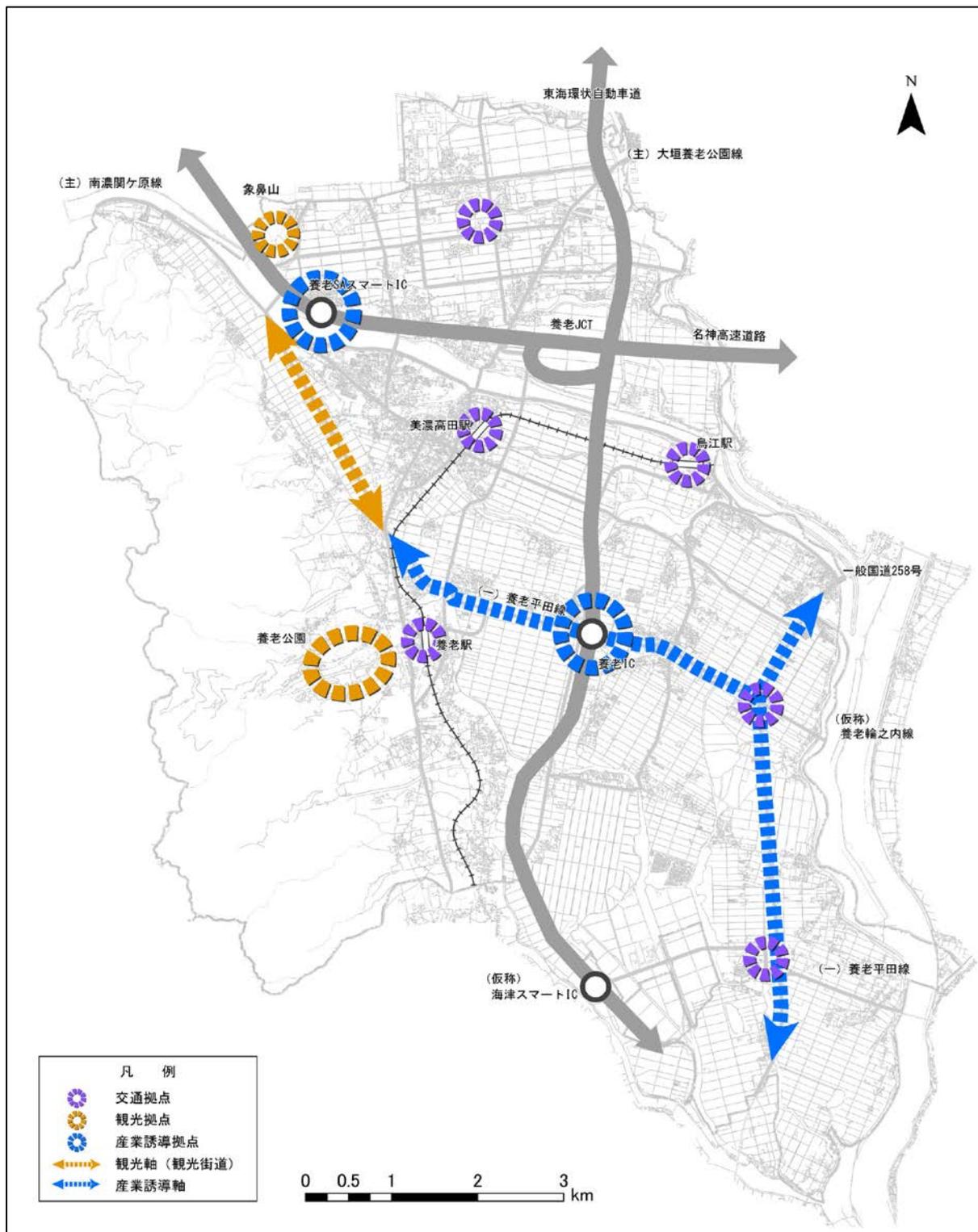
#### ④ 観光軸

(主)南濃関ヶ原線の北部沿道は、本町の特産である食肉を活かした焼肉の名店が多く立地している焼肉街道を観光軸に位置づけます。また、インバウンドを見据えた受入環境の充実を図り、更なる集客力の向上を図ります。

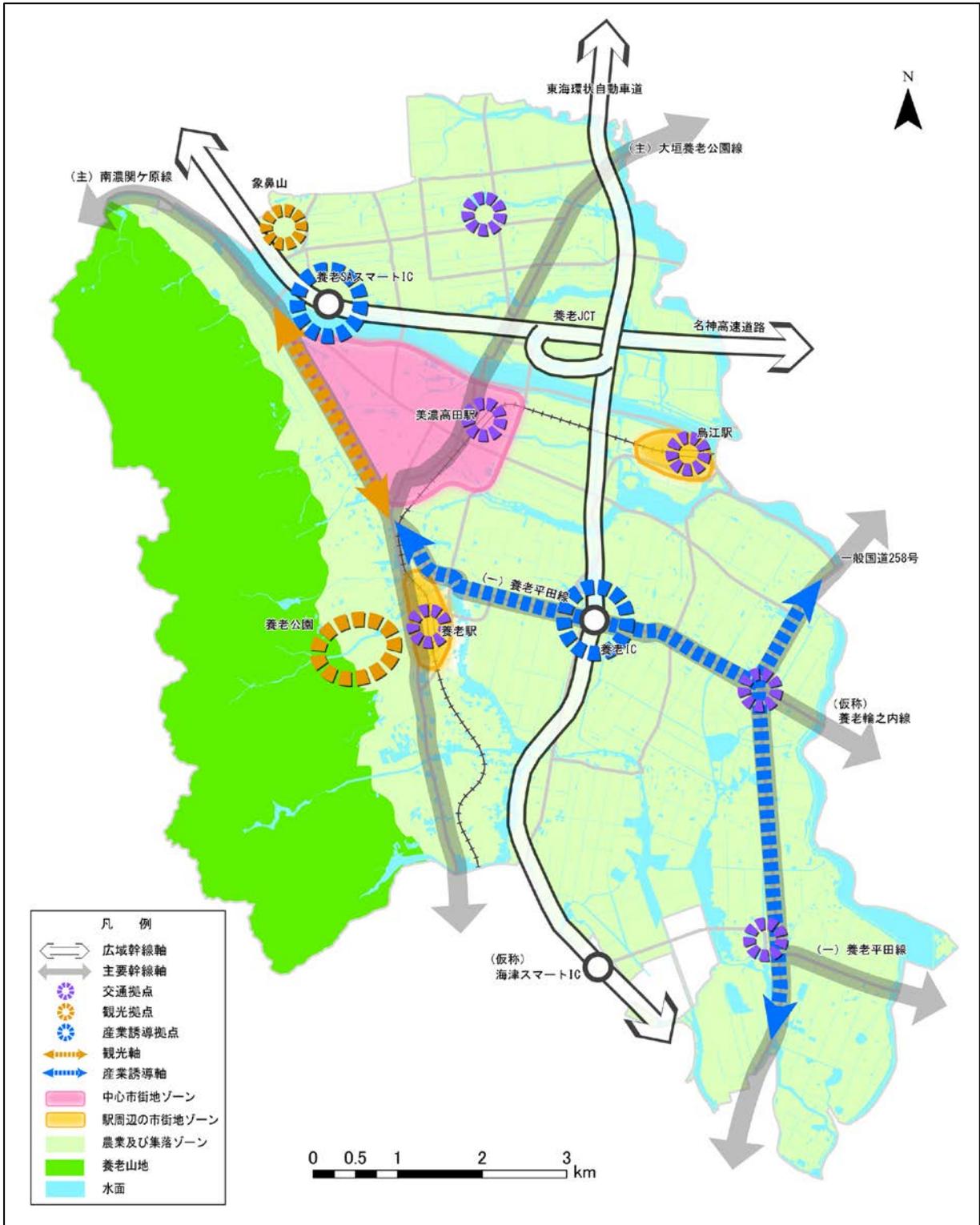
#### ⑤ 産業誘導軸

一般国道 258 号や(一)養老平田線沿道を産業誘導軸と位置づけます。産業誘導拠点と同様に立地ポテンシャルを活かした製造業の拠点、流通上のハブとしての役割のほか、自動車交通に対応した近隣住民に魅力的な商業環境の形成、観光客向けの 6 次産業施設や道の駅の誘導を図ります。

図 拠点・軸

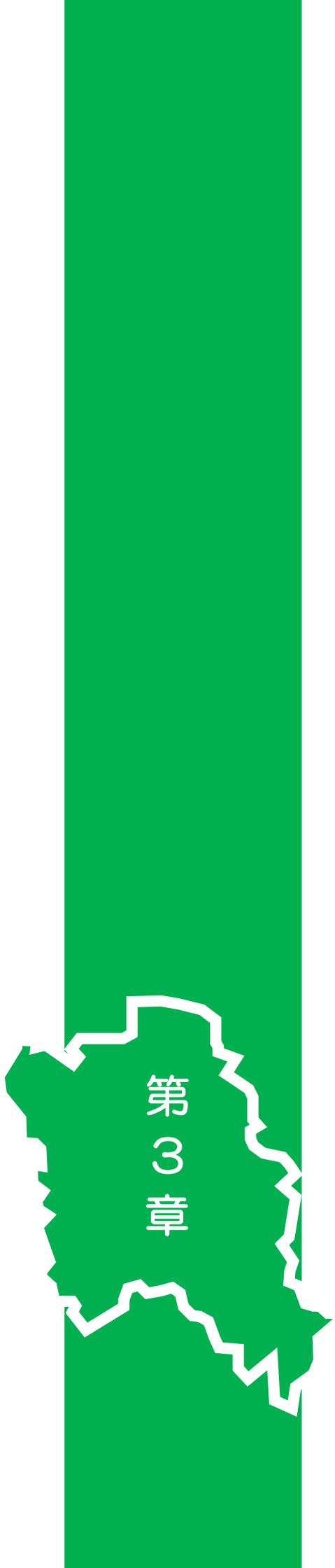


2. 将来都市構造図



## 第3章 まちづくりの方針

- 3-1 土地利用の方針
- 3-2 交通体系の方針
- 3-3 公園・緑地整備の方針
- 3-4 下水道整備の方針
- 3-5 その他都市施設の方針
- 3-6 市街地整備の方針
- 3-7 都市防災の方針
- 3-8 都市景観の方針
- 3-9 地域ブランドの方針



## 第3章



## 第3章 まちづくりの方針

### 3-1 土地利用の方針

#### 1. 基本的な方針

全国的な人口減少や高齢化は、本町も例外ではありません。2015年の国勢調査では、人口は3万人を下回り、高齢化率は3割弱となっています。そのため、今後は無秩序な市街地の拡大を抑制し、中心市街地や公共交通の確保されたゾーンで市街地を維持し、公共交通ネットワークやインフラが充実した集約型都市構造構築のための土地利用を図ります。

また、養老SAスマートIC・養老IC周辺では、立地ポテンシャルを活かしたインターチェンジ周辺にふさわしい土地利用を図ります。

#### 2. 整備の方針

##### (1) 住宅地

###### ① 中心市街地

- ・2000年までDIDに指定されていた美濃高田駅周辺の高田地区は、本町の中心市街地であることから、既存ストックや空き地・空き家を利活用し、市街地の再生を図ります。

###### ② 養老駅周辺の市街地

- ・養老駅周辺では、生活道路の整備や空き地・空き家の有効活用により、住環境の向上を図り、市街地を維持・誘導します。

###### ③ 烏江駅周辺の市街地

- ・烏江駅周辺では、優良な農地との調整を図りつつ、市街地を維持・誘導します。

###### ④ 既存集落

- ・既存集落では、市街化誘導を積極的には行わず、現在の生活基盤を維持していきます。

##### (2) 商業地

###### ① 中心市街地

- ・中心市街地である高田地区では、(都)高田五日市線・(都)高田石畑線・(主)大垣養老公園線を中心に日常生活を支える身近な商業環境を整備します。

② 沿道

- ・一般国道 258 号・(一)養老赤坂線の沿道については、既存の商業集積を活かしつつ、周辺環境に配慮し、自動車交通に対応した近隣住民に魅力的な商業環境を維持します。
- ・(主)南濃関ヶ原線・(一)養老平田線では、食肉産業施設や農業加工施設などの 6 次産業施設や道の駅のような観光客向け商業環境の形成を検討します。

(3) 工業地

① 養老 SA スマート IC・養老 IC

- ・養老 SA スマート IC・養老 IC の開通による交通利便性を活かし、アクセス道路等の計画的な基盤整備を行い、工業集積や運輸業などの新規産業の誘致により、更なる産業振興を図ります。

② 沿道

- ・一般国道 258 号・(主)南濃関ヶ原線・(仮称)養老・大垣・安八線沿道の既存の工業地については、周辺環境と調和した良好な工業環境の維持に努めます。

(4) 自然・レクリエーション地区

- ・緑豊かな自然や歴史が息づく養老山地や象鼻山、豊富な水資源を有する揖斐川・牧田川・杭瀬川などの河川は、本町の貴重な自然であり、災害対策を講じつつ保全に努めます。
- ・養老の滝周辺や、河川緑地等の親水空間においては、自然を活かしたレクリエーション地区として、観光客のニーズに対応した魅力的な土地利用を図ります。

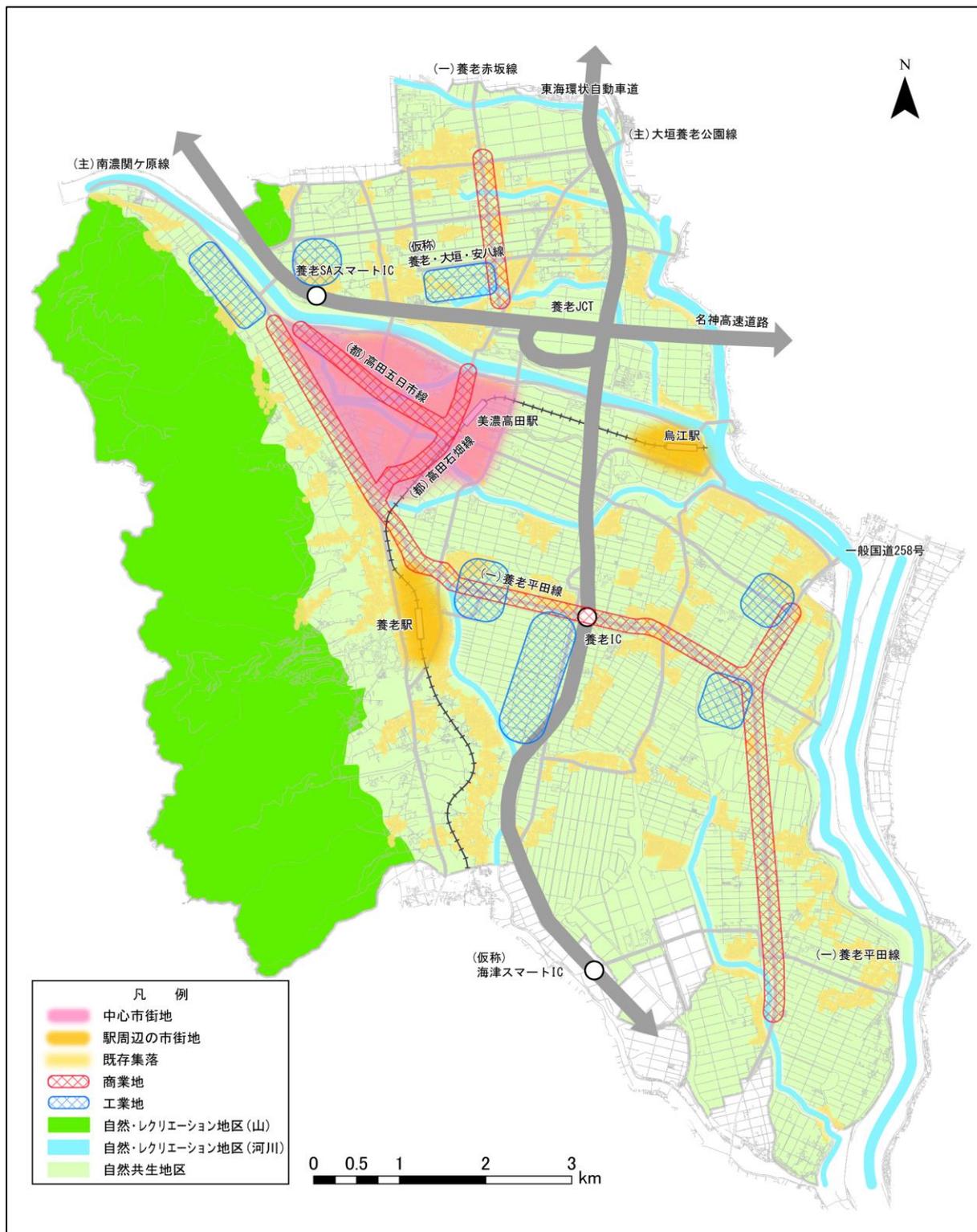


(5) 自然共生地区

- ・本町の大半を占める農地は、基本的には保全に努めますが、養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺については、市街化と調整を図りつつ保全します。
- ・豊かな田園を有する大巻地域においては、農業基盤の整備を図り、農業生産環境の改良に努めます。



図 土地利用の方針



## 3-2 交通体系の方針

### 1. 基本的な方針

周辺市町に比べ高齢化率が高い本町では、更なる高齢化に適切に対応していく必要があります。そのため、高齢ドライバーにも対応した運転しやすい環境づくりや、運転免許証の自主返納者にとっても暮らしやすい、バス・鉄道などの交通機関の乗り換えがスムーズにできるシームレスな公共交通ネットワークの形成を図ります。

また、養老 SA スマート IC・養老 IC の開通による交通需要に対応した道路ネットワークを整備します。

### 2. 整備の方針

#### (1) 道路

- ・高齢ドライバーにも安全に安心して運転できるよう、カーブミラーや街灯などの交通安全施設の整備を検討します。
- ・主要幹線道路や幹線道路においては、将来の交通需要に対応するため、交通処理能力の向上や新規路線の検討により渋滞の緩和を図ります。
- ・養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺では、交通量の増加が予想されるため、それに対応した交通環境の整備をはじめ、アクセス道路の強化・充実を図ります。
- ・高田地区や既存集落においては、道路ネットワーク充実のため、道路整備や現道の拡幅、歩道の整備を検討します。
- ・都市計画道路の整備を促進するとともに、都市計画道路の見直しを図ります。



表 対象路線

種 別	道 路 名 称
自動車専用道路	名神高速道路
	■東海環状自動車道
主要幹線道路	■一般国道 258 号
	■(主)大垣養老公園線
	■(一)養老平田線
	(主)南濃関ヶ原線
	(仮称)養老輪之内線
幹線道路	(主)羽島養老線
	(一)養老赤坂線
	(一)牧田室原線
	(一)養老垂井線
	(町)上多度池辺線
	(仮称)養老・大垣・安八線

■：都市計画道路

## (2) 鉄道・駅前広場

- ・本町と大垣市や桑名市などと連絡する養老鉄道は、今後も利用を促進するため、関係機関に輸送体制の強化を要請し、利便性の向上を図ります。
- ・美濃高田駅・養老駅・烏江駅の鉄道駅周辺では、超高齢社会などを見据えつつ、バリアフリー化やユニバーサルデザインを推進します。
- ・バスやタクシーなどからの乗り継ぎがスムーズにできる駅前広場を整備します。



## (3) 駐車場

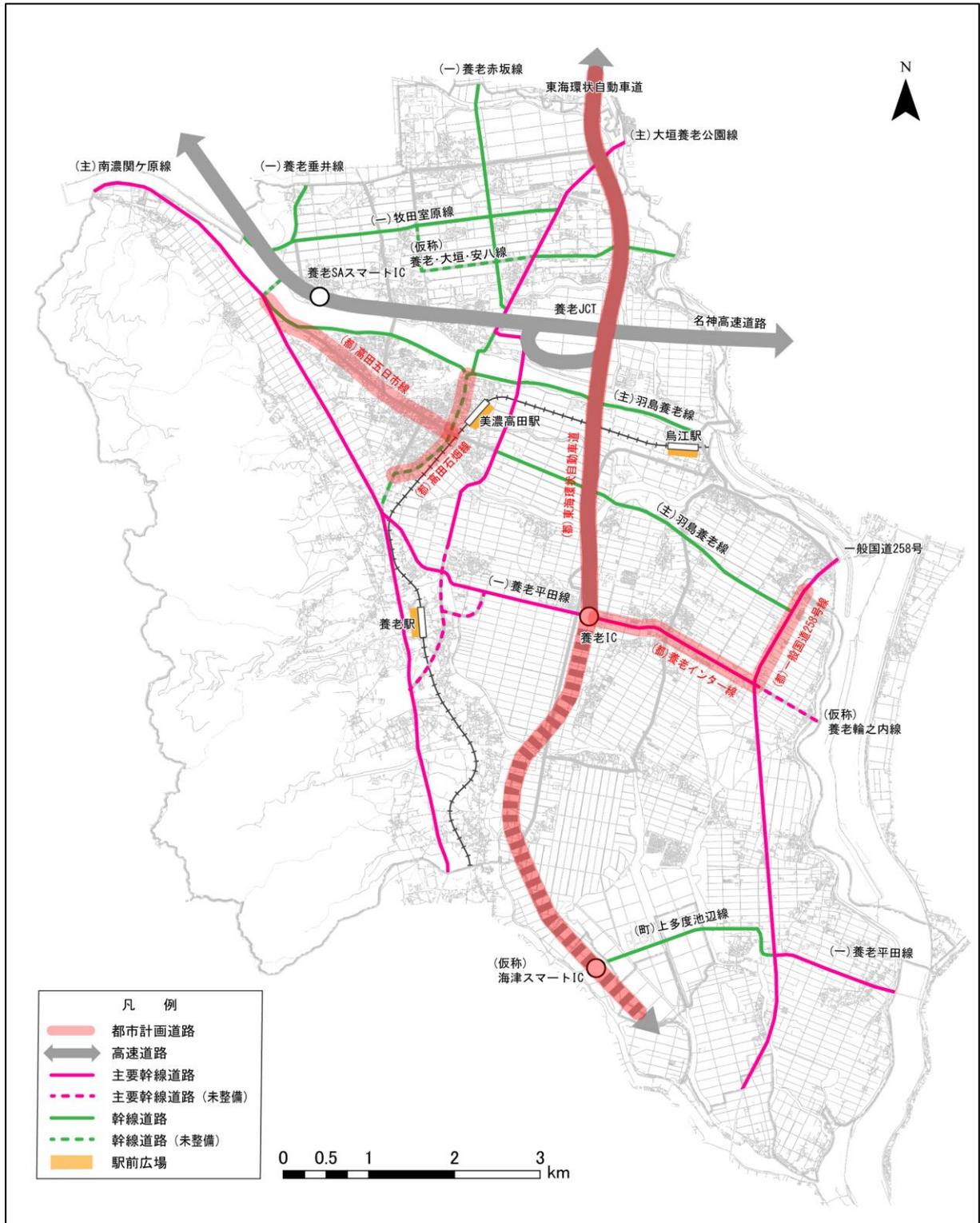
- ・美濃高田駅・烏江駅において、環境や渋滞を考慮し、パークアンドライド用の駐車場を整備します。
- ・空き地や公共施設・文化施設などの集約により、駐車場を適正に整備します。



## (4) モビリティサービス

- ・自宅と交通拠点や養老鉄道駅間における交通機関の利便性向上のため、モビリティサービスの充実を検討します。
- ・交通拠点間を結ぶバス路線を検討します。
- ・オンデマンドバスの予約をインターネットからもできるように整備します。

図 道路整備の方針



第3章

## 3-3 公園・緑地整備の方針

### 1. 基本的な方針

本町が有する豊かな自然環境は、住民にやすらぎを与えるほか、農地は治水機能、山林は治山機能を有しており、防災上においても重要な役割があります。そのため、基本的に農地・山林は保全に努めます。

また、養老山地の緑地は観光地としての一面を有していることから、国内観光客だけでなく外国人観光客のニーズにも対応した自然観光地の形成を図ります。

### 2. 整備の方針

#### (1) 公園

- ・本町では中央公園と養老公園の2つが都市公園に指定され、共に現在供用されています。1人あたりの公園・緑地面積は、27.1 m<sup>2</sup>/人（2015年現在）となっており、都市公園法施行令の基準である10 m<sup>2</sup>/人を満たしています。しかし、身近な公園（街区公園や近隣公園などの住区基幹公園）が少ないため、日常的に利用しやすい寺院や神社等を住民が集う場所として活用します。

#### (2) 緑地

本町の豊かな自然環境を構成する緑地について、環境保全、観光・レクリエーション、防災、景観構成の4つの観点から整備の方針を示します。

##### ① 環境保全

- ・養老山地や象鼻山などの山林や、豊富な水資源を有する揖斐川や牧田川、杭瀬川などの河川は本町の貴重な自然であり、動植物の生息地であることから適切に保全します。

##### ② 観光・レクリエーション

- ・養老山地は、観光面において町内外からの多くの登山客が訪れる場となっています。そのため、観光客が自然にふれあえる場として山林の保全を図ります。
- ・本町内を流れる揖斐川・牧田川・杭瀬川・金草川や、点在する池周辺の親水空間については、住民が身近に水を感じられる憩いの場として整備を進めます。

##### ③ 防災

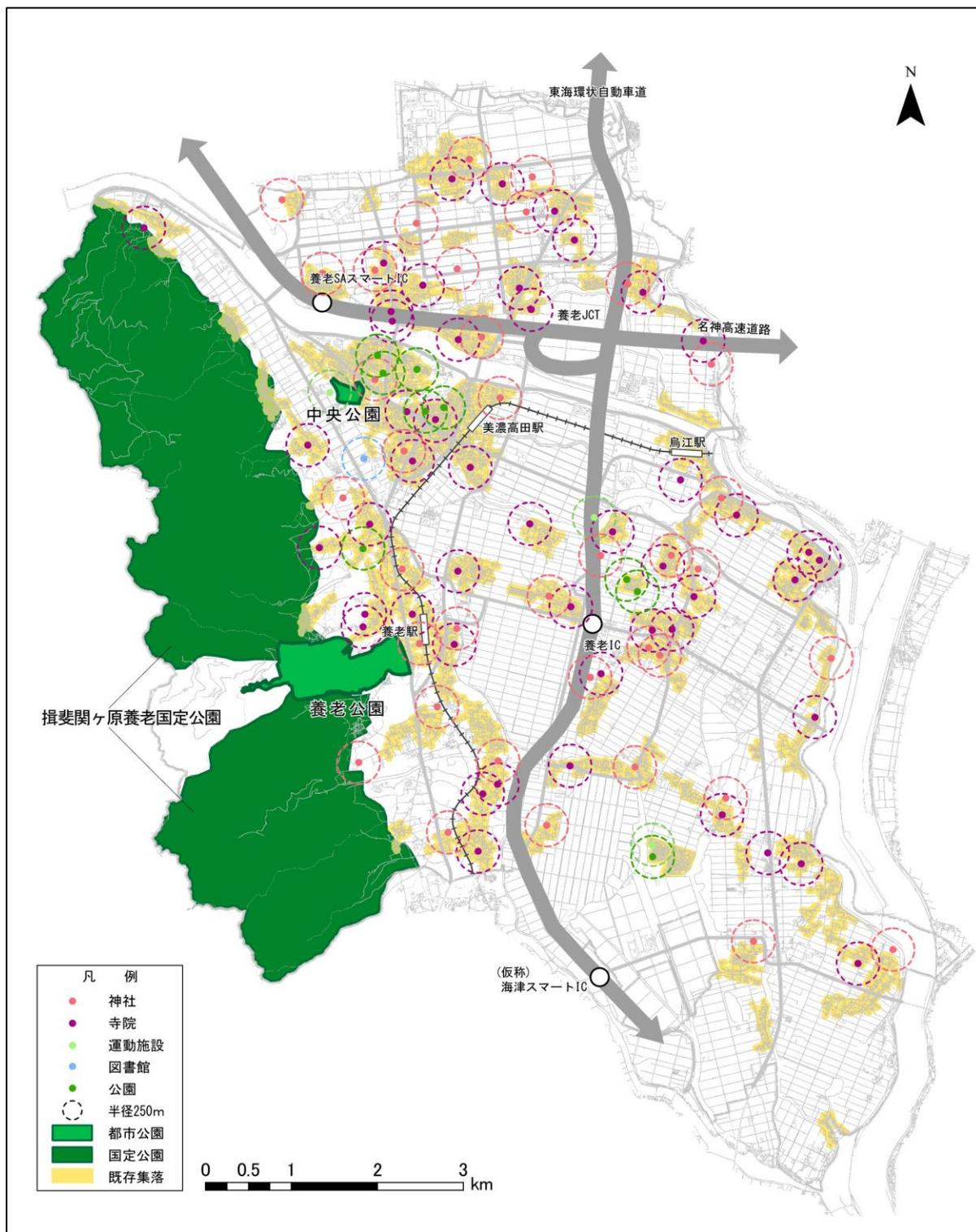
- ・養老山地の山林は治山機能を有しており、防災上重要な役割を果たすものであることから、砂防指定地や土砂災害特別警戒区域等の指定による土地利用の規制、無秩序な開発行為を抑制し、保全に努めます。

- ・本町の4割を占める農地は、治水機能を有していることから、基本的には保全しますが、養老SAスマートIC・養老IC周辺については、市街化と調整を図りつつ保全します。
- ・身近な公園や広場、緑地については、火災の際の緩衝帯や災害時の避難場所としての機能を有していることから、適切に維持します。

#### ④ 景観構成

- ・豊かな自然を有する養老山地では、「養老町観光景観林総合整備計画」に基づき、植樹等を行い、優れた山林景観の形成を図ります。
- ・揖斐川・牧田川・杭瀬川・金草川などの河川では、親水空間の整備等により水を感じる潤いあふれる景観の形成を図ります。

図 公園・緑地整備の方針



## 3-4 下水道整備の方針

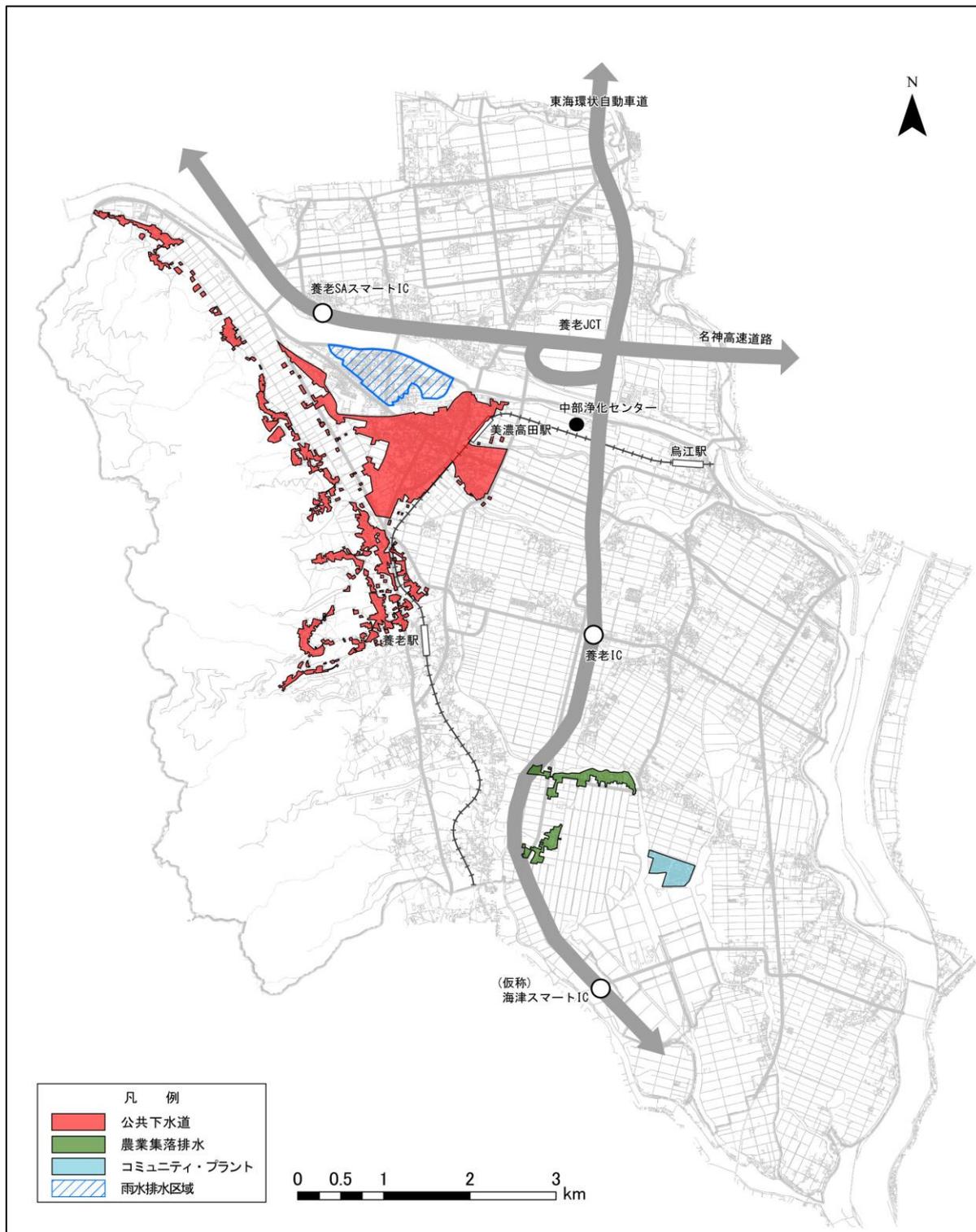
### 1. 基本的な方針

本町の下水道は、「養老町污水处理施設整備構想」に基づき、維持管理を図っていきます。

### 2. 整備の方針

- ・ 2018年3月に策定された「養老町污水处理施設整備構想」は、公共下水道の中部処理区、農業集落排水の上多度処理区及びコミュニティ・プラントの大場平東地区の整備をもって完了しました。その他の区域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。今後は、下水道施設の適正な維持管理を図り、生活環境の向上及び公共用水域の水質保全に努め、污水管渠や処理施設の計画的な更新を図ります。
- ・ 2019年1月には污水排水区域91haを除外し、新たに浸水対策が必要である区域60haを雨水排水区域として設定し、整備を進めます。

図 下水道整備の方針



## 3-5 その他都市施設の方針

### 1. 基本的な方針

快適な生活環境や美しい地域環境の実現のために、必要なごみ処理場・し尿処理場・火葬場などの公共施設については、維持管理に努めます。また、多様化する住民ニーズや周辺環境と調和を図りながら、必要に応じて施設の拡充などにより効率的な運用について検討します。

### 2. 整備の方針

#### (1) ごみ処理施設

- ・可燃物のごみ処理については、本町南部に位置するようろうドリームパーク（南濃清掃センター）において、海津市や関ヶ原町と共同で処理やリサイクルを行っています。今後は、環境対策の強化として施設の拡充を図ります。
- ・不燃物のごみ処理については、ようろうドリームパーク(南濃清掃センター)に隣接する西南濃粗大廃棄物処理センターにおいて、西濃地域広域市町圏全体（大垣市・海津市・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町）での共同処理を行っています。今後も、リサイクルの推進及びエネルギーの有効活用の促進など、環境対策の強化として施設の拡充を図ります。

#### (2) し尿処理施設

- ・し尿処理施設は、牧田川の南側に隣接する南濃衛生施設利用事務組合汚物処理場において、海津市と共同で行っています。今後は、老朽化した施設の建替えなどにより、汚泥の資源化等の循環型社会形成に資する施設を目指します。

#### (3) 火葬場

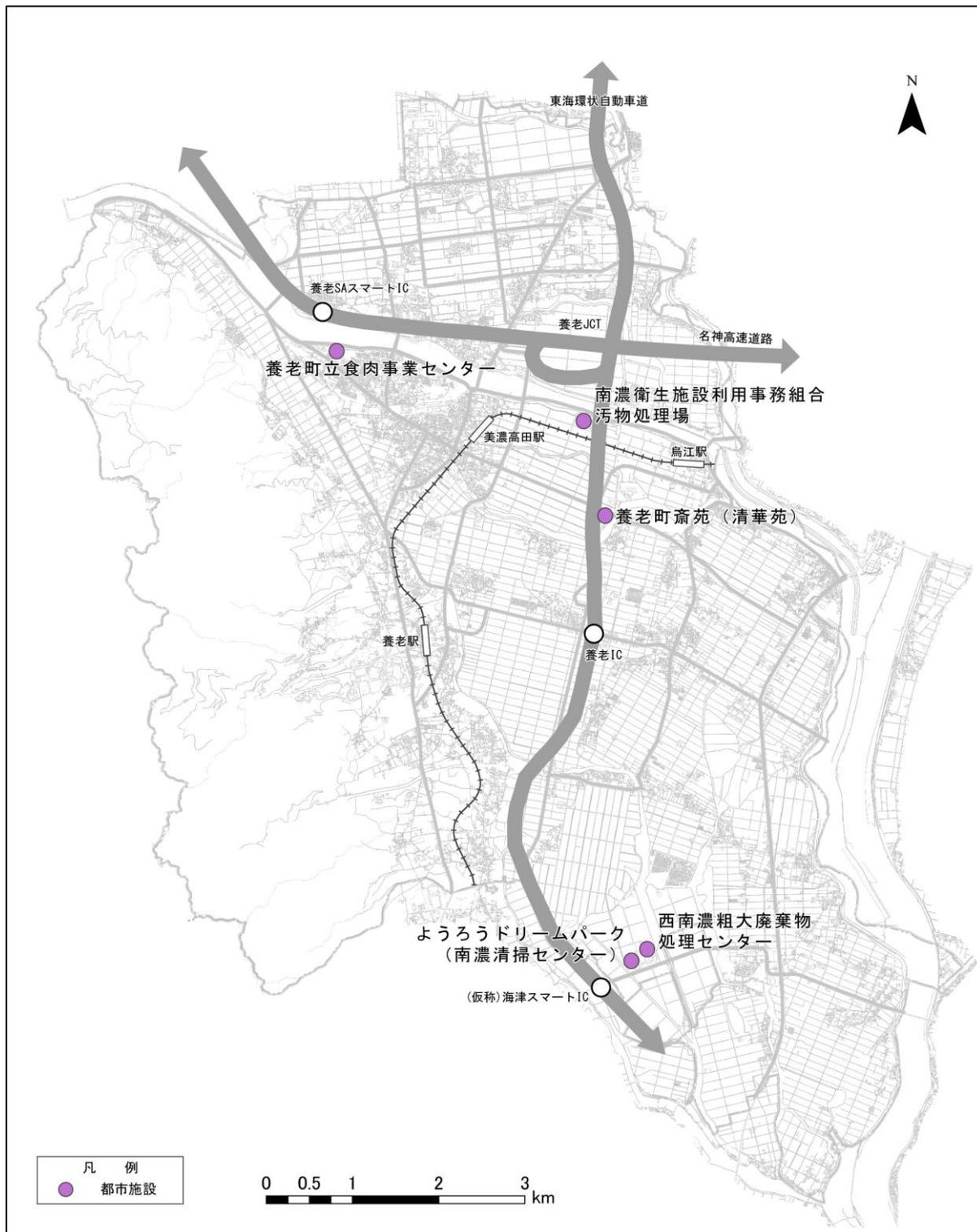
- ・本町の中央部に位置する養老町斎苑（清華苑）は、本町の火葬場として利用されていますが、今後の社会的変化、多様化する住民ニーズに沿った公営斎苑としてのあり方を検討し、円滑な施設運用を図ります。

#### (4) その他

- ・上記の都市計画施設以外に、本町の特徴でもある養老町立食肉事業センターが高田地区の北西部に立地しています。また、食肉産業の更なる振興のため、新たな食肉基幹市場の建設を検討しています。

※施設名称は、都市計画決定された際の施設名称で記載しています。

図 その他都市施設の方針



## 3-6 市街地整備の方針

### 1. 基本的な方針

既存ストックを最大限に活用し、都市基盤の整備・改良によって、狭あい道路の解消やバリアフリー化を進め、快適な住環境の形成を図り、超高齢社会に適切に対応します。

また、集約型都市構造構築のため、高田地区の市街地の再生や養老駅・烏江駅周辺の整備を優先的に行い、既存集落では都市基盤を維持し、住環境の保全を図ります。

さらに、養老 SA スマート IC・養老 IC の開通による立地ポテンシャルを活かして、企業立地の受け皿となる用地整備を検討します。

### 2. 整備の方針

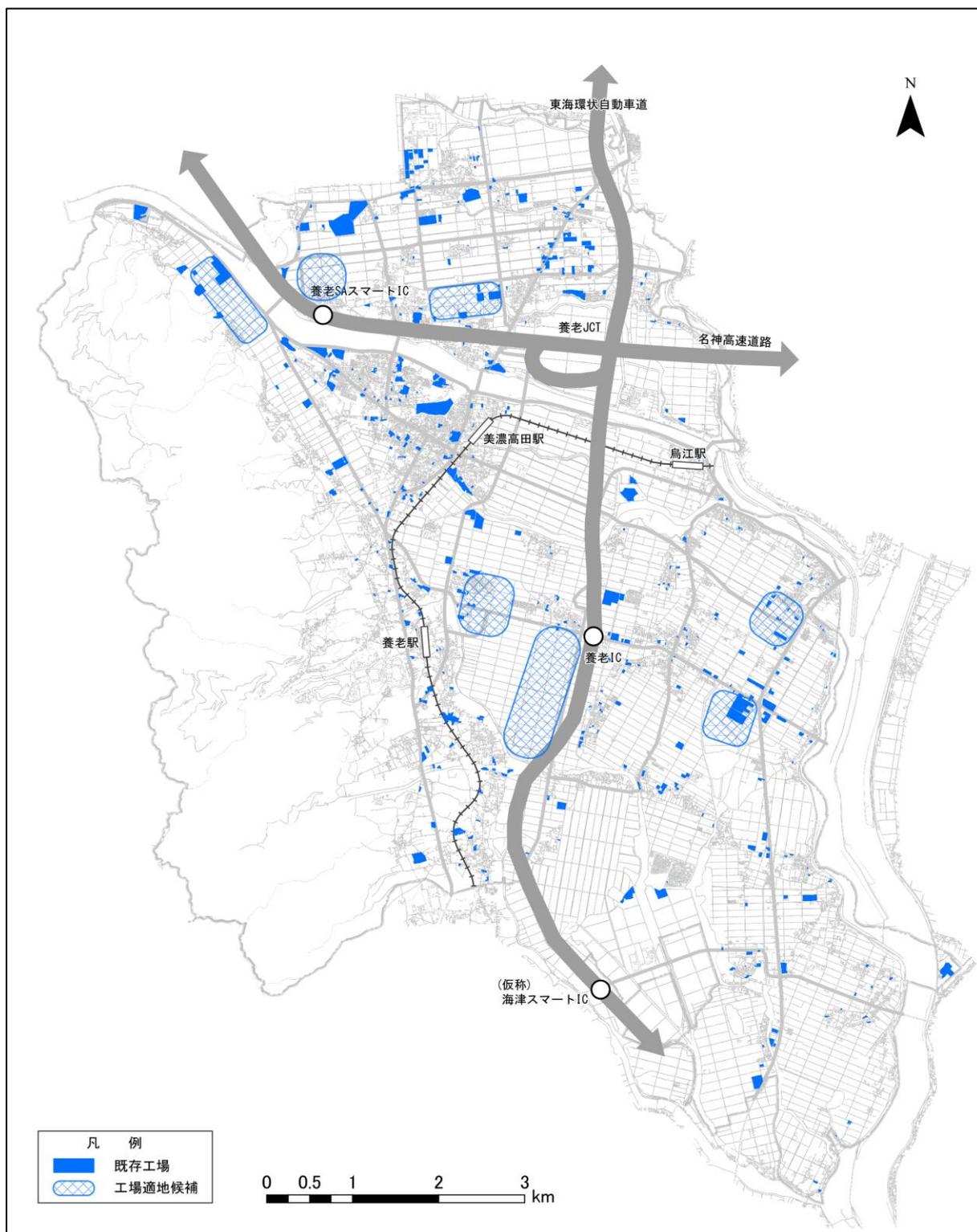
#### (1) 既存市街地の再生

- ・高田地区は、中心市街地であることから都市基盤が充足しています。そのため、既存ストックや空き地・空き家を利活用し、市街地の再生を図ります。
- ・養老駅や烏江駅周辺は、既存ストックを活用しつつ、狭あい道路の改善、空き地・空き家の有効活用により駅周辺にふさわしい環境整備を図っていきます。
- ・土地区画整理事業等で整備された既存集落は、既存ストックを活用し、良好な住環境を維持します。

#### (2) 企業立地の受け皿となる用地整備

- ・養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺では、交通利便性の向上により、立地ポテンシャルが高まっています。そのため、周辺環境との調和を図りながら企業誘致のための用地整備を検討します。
- ・今後は、適地選定の調査を行うとともに、企業誘致までの整備プログラムをあわせて検討します。

図 工場適地候補



※既存工場には、運輸業・倉庫を含んでいません。

## 3-7 都市防災の方針

### 1. 基本的な方針

近年、豪雨や南海トラフ地震などの大規模な自然災害の発生が危惧されています。そのため、国土強靱化地域計画（策定予定）や耐震促進計画に基づき、災害に強い市街地の形成を目指します。

また、住民の防災・減災意識を高め、「自助」・「共助」の考えのもと、防災・減災対策の推進を図ります。

### 2. 整備の方針

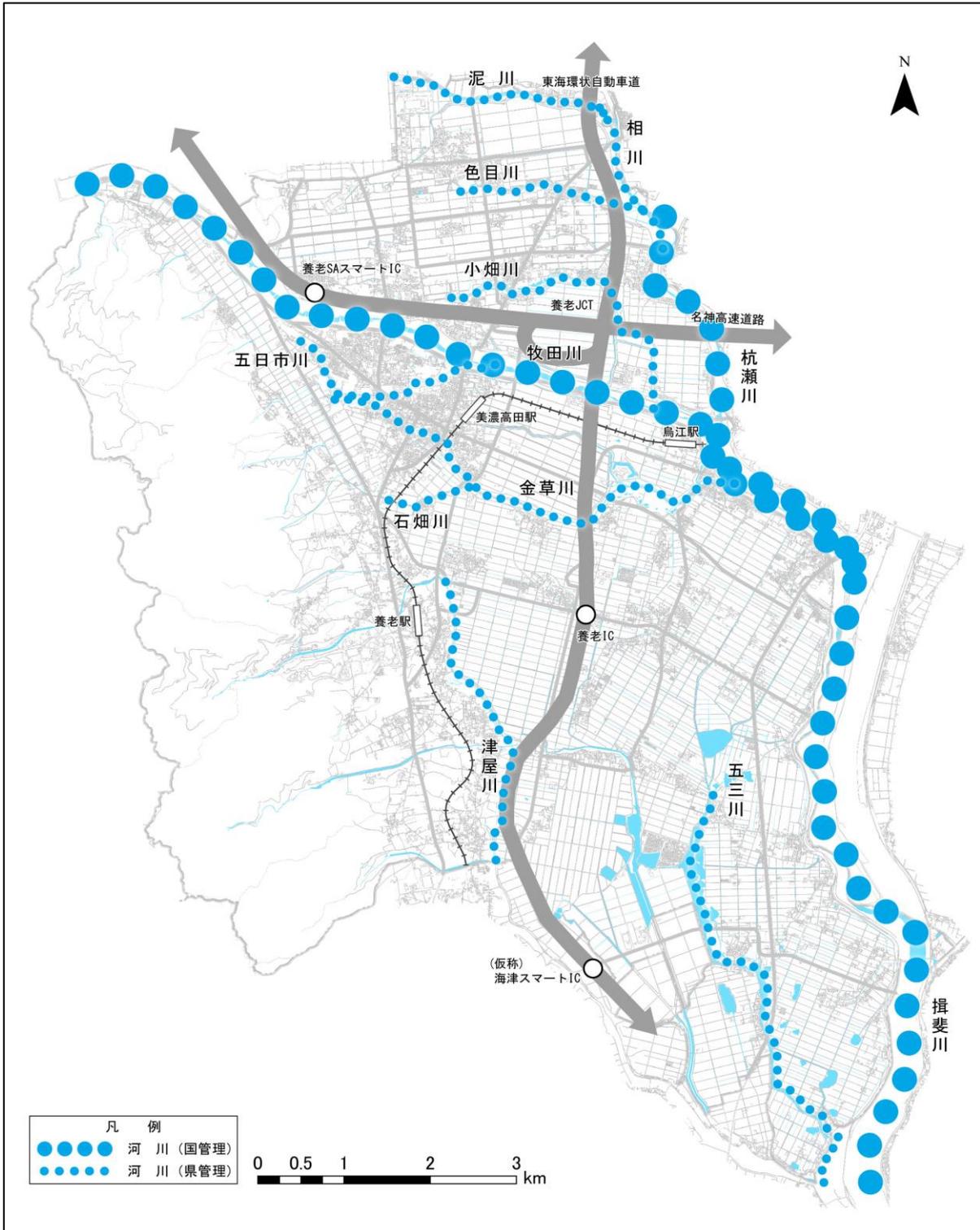
- ・ 台風による洪水の被害を経験している牧田川や津屋川沿岸については、床下浸水対策を進めます。また、本町の4割を占める農地は、治水機能を有していることから保全に努めます。
- ・ 揖斐川・牧田川・杭瀬川・金草川をはじめとする河川は、地域防災計画や水防計画、岐阜県新五流域総合治水対策プランをもとに、災害の危険性の高い河川から改修事業を行い、治水対策に努めます。
- ・ 養老山地の山林は治山機能を有しており、防災上重要な役割を果たすものであることから、砂防指定地や土砂災害特別警戒区域等の指定による土地利用の規制、無秩序な開発行為を抑制し、保全に努めます。
- ・ 市街地内の狭あい道路については、避難経路確保のために拡幅を図ります。
- ・ 主要幹線道路等は、緊急輸送道路や避難経路としての機能向上ため、無電柱化の促進や歩道の整備を進めます。
- ・ 道路や橋梁などのライフラインの耐震化を推進します。
- ・ 災害発生時には町単独での対応にも限界があるため、緊急消防援助隊を整備していますが、今後は県域での広域化を推進します。また、消防本部の体制強化と住民の利便性向上、行財政運営の効率化も検討し、管内防災拠点である消防本部の移転と適正な配置を図ります。
- ・ 消防救急デジタル無線整備、指令センターの県一元化を検討します。
- ・ 行政・自主防災組織・消防団の連携により、ハザードマップ等を活用し、災害危険箇所や避難経路、避難場所の周知に努め、防災・減災意識の向上を図ります。

表 緊急輸送道路

種 別	道路名称
1 次緊急輸送道路	名神高速道路
	東海環状自動車道
	一般国道 258 号
2 次緊急輸送道路	(主)大垣養老公園線
	(主)南濃関ヶ原線
	(一)牧田室原線
	(一)養老平田線
	(一)養老垂井線
	(町)橋爪 1 号線
	(町)橋爪 42 号線
	(町)安久橋爪 1 号線

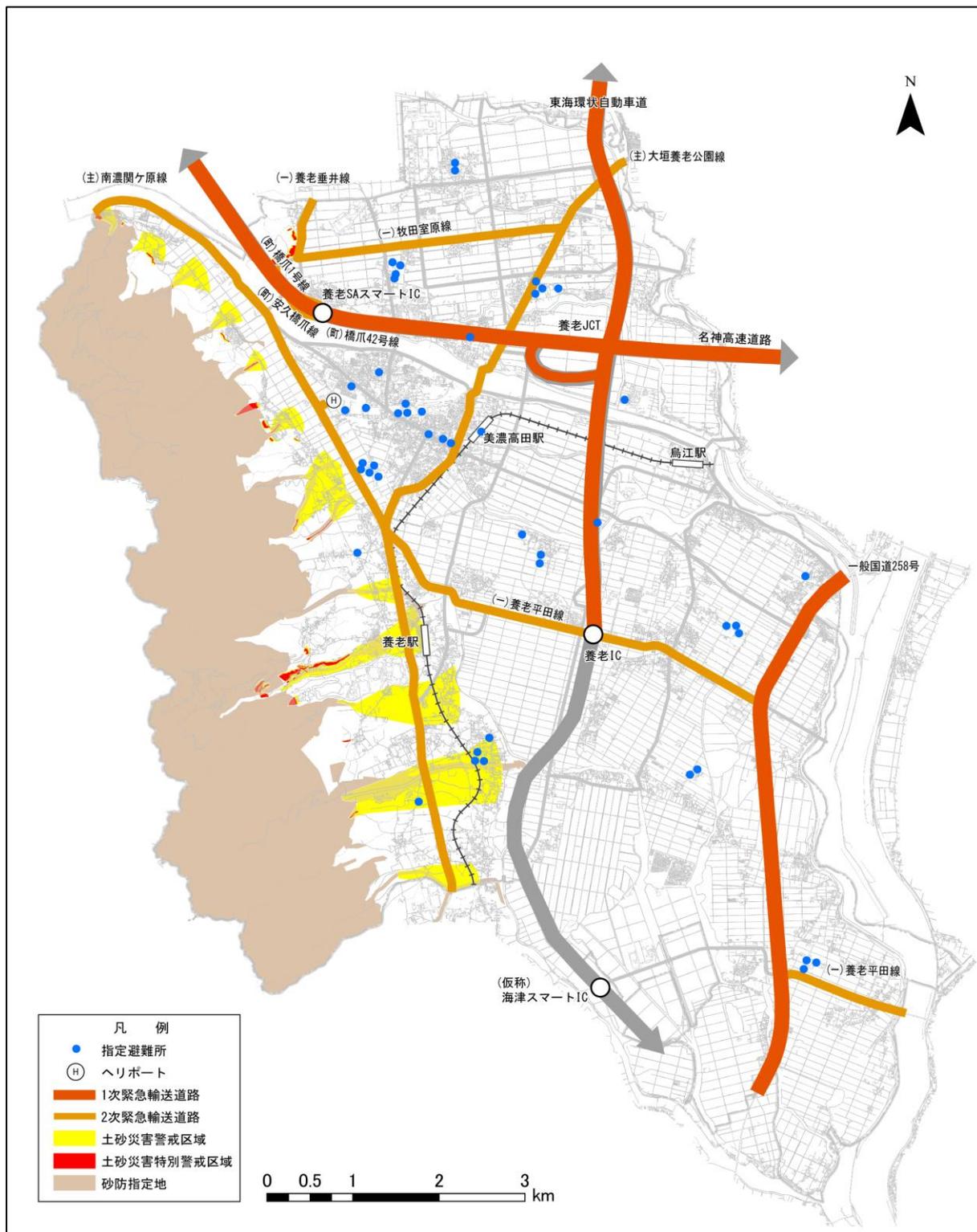
【資料：県域統合型 GIS】

図 管理者別河川



第3章

図 防災上の規制等



## 3-8 都市景観の方針

### 1. 基本的な方針

高田地区などの市街地の景観、養老山地や象鼻山、河川、田園などの自然の景観、柏尾廃寺跡周辺などの歴史的な景観、養老公園などの観光地の景観、幹線道路沿道の景観、それぞれに応じた景観の形成を進めます。なお、今後は景観行政団体への移行及び「景観計画」の策定を検討し、景観の保全を図っていきます。

### 2. 整備の方針

#### (1) 市街地景観

- ・高田地区については、旧市街地の景観を残しつつ、統一感のある中心市街地としての景観の形成を図ります。
- ・養老駅や烏江駅周辺は、駅周辺にふさわしい景観の形成を図ります。



#### (2) 自然景観

- ・本町の西側に広がる養老山地や象鼻山をはじめ、牧田川・揖斐川などの河川、本町全域に広がる田園風景などは、重要な自然景観として保全を図ります。特に養老山地については、「養老町観光景観林整備計画」に基づき、景観の形成を図ります。



#### (3) 歴史景観

- ・指定文化財に指定されている史跡周辺などは、貴重な歴史景観として保全し、観光客にとって魅力ある景観の形成を図ります。



指定別	名 称
県	柏尾廃寺跡
	元正天皇行幸遺跡
	根古地薩摩工事義歿者墓
	天照寺薩摩工事義歿者墓
	大巻薩摩工事役館跡

#### (4) 観光景観

- ・ 養老公園や象鼻山周辺では、観光客増加を図るための魅力的な景観の形成を図ります。



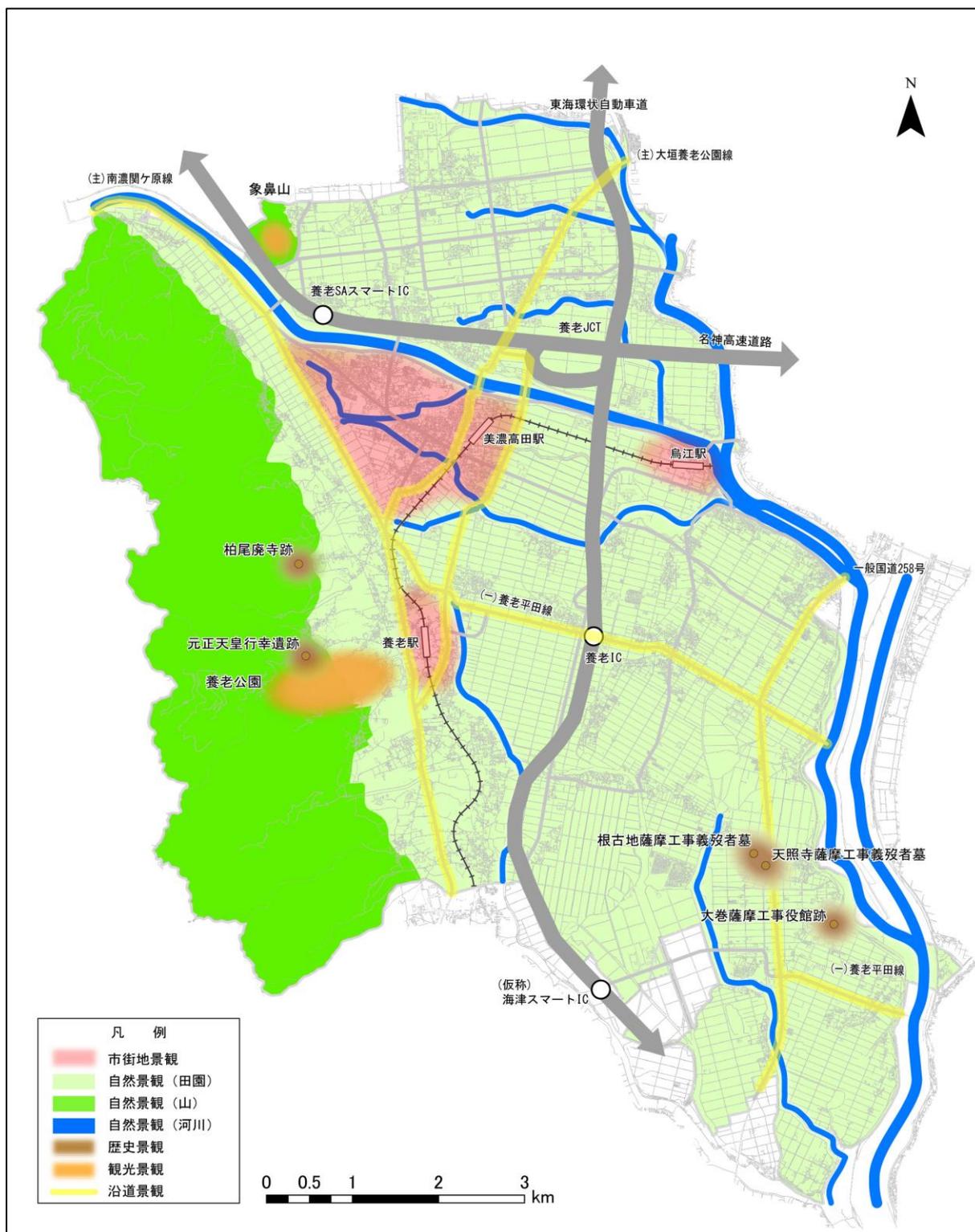
#### (5) 沿道景観

- ・ 主要幹線道路や市街地内の沿道では、植樹や屋外広告物条例に基づいた看板の規制など、周辺環境に配慮した景観の形成を図ります。



道路名称	方針
一般国道 258 号	ドライバーがゆとりをもって運転することのできる景観の形成
(主)南濃関ヶ原線	養老山地と調和した観光街道にふさわしい景観の形成
(主)大垣養老公園線	市街地の沿道としてふさわしい景観の形成
(一)養老平田線	田園風景と調和した景観の形成

図 都市景観の方針



## 3-9 地域ブランドの方針

### 1. 基本的な方針

日本では、人口減少や少子高齢化により国内観光客の減少が想定されます。一方で、訪日外国人客数は年々増加し、2018年には3,000万人を超えていることから、今後は、外国人観光客にも焦点をあて、インバウンド需要の取り込みを図ります。

本町の特徴でもある養老山地や象鼻山を活かした観光地の整備や、本町の魅力である焼肉街道の周辺も含め、受入環境の整備を検討します。さらに、地域ブランドの向上を図るとともに、新たな地域ブランドの創出も進めます。

### 2. 整備の方針

#### (1) 養老公園

- ・年間100万人を超える観光客数を誇り、2020年には開園140周年を迎える養老公園では、養老の滝・こどもの国・養老天命反転地などのリニューアルをはじめ、外国人観光客に対応した観光地の整備を県に要望し、振興を図ります。



#### (2) 焼肉街道

- ・(主)南濃関ヶ原線の北部沿道は、本町の特産である食肉を活かし、観光客が訪れやすい観光街道として整備を進めます。

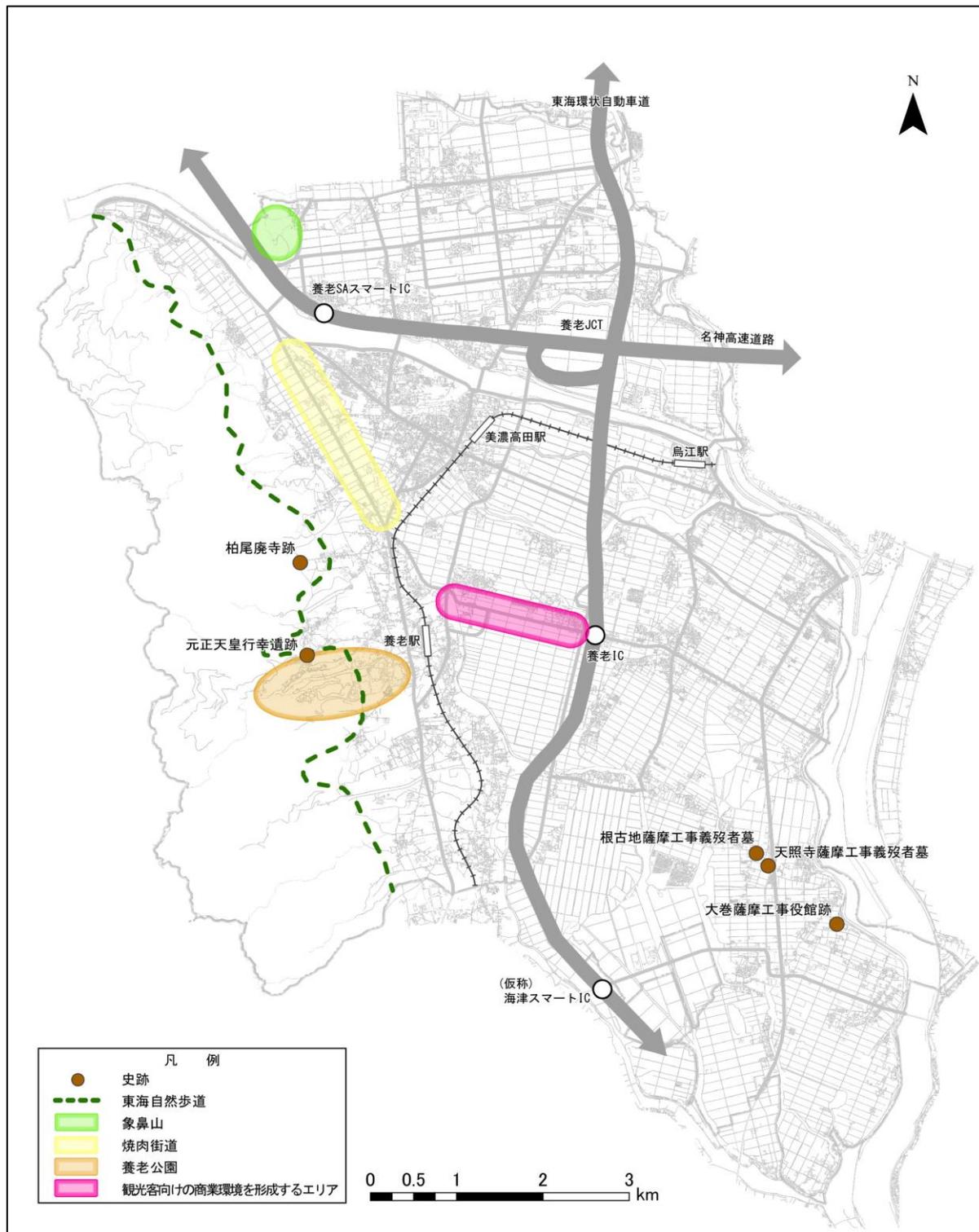


### (3) その他

- ・インバウンド需要を取り込むため、多言語の案内板をはじめ、多言語に対応した観光パンフレットの作成や「タギゾウくんの養老ナビ」の活用を検討します。
- ・象鼻山、焼肉街道、柏尾廃寺跡、養老公園をつなぐ周遊ルートの周知を図ります。
- ・(一)養老平田線沿道に、食肉産業施設や農業加工施設、農家レストランなどの6次産業施設の誘導や、本町の特産ブランド認証品を販売する道の駅のような観光客向けの商業環境の形成を図ります。
- ・養老山地内の東海自然歩道をはじめ、自然と触れ合うことのできるハイキングコースの整備を検討します。
- ・農業等を活かした交流やグリーン・ツーリズム企画の展開を図ります。
- ・新たな地域ブランドの創出を検討します。
- ・魅力ある製品を養老町特産ブランド認証品として認定します。また、町内外の物産展や商談会を活用し、産業振興を図ります。



図 地域ブランドの方針





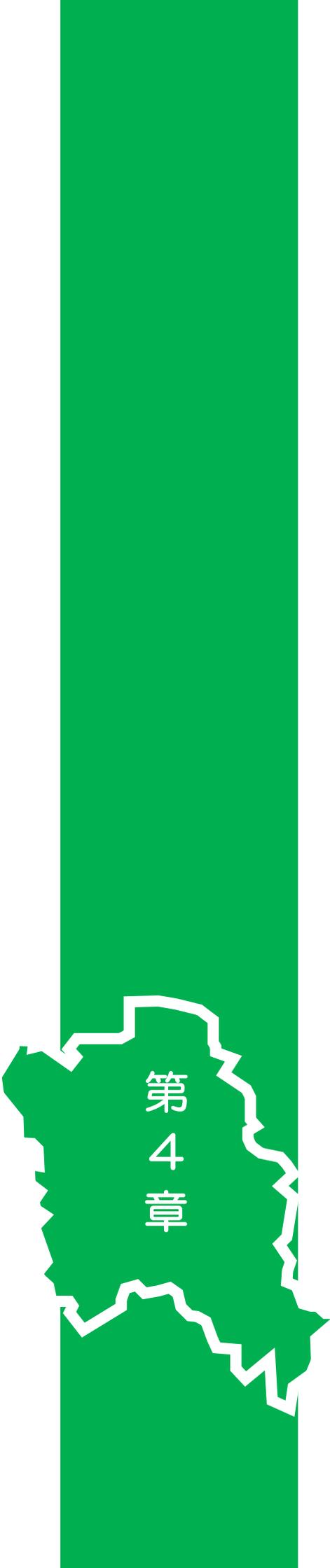
## 第4章 地域別構想

4-1 地域別構想の役割

4-2 北部地域

4-3 南部地域

4-4 養老地域



## 第4章



## 第4章 地域別構想

### 4-1 地域別構想の役割

#### 1. 地域別構想の目的

全体構想は、本町全域を大きな視野で捉え、将来のあるべきまちの姿を示したものです。しかし、住民にとって町全域での方針は、自分たちの生活にどのように関わるのかわかりづらい一面があります。

そこで、住民により身近なものとするために、本計画の中で地域ごとにまちづくりの方向性を示した「地域別構想」を作成しました。

#### 2. 地域区分

地域区分は地域的なつながりに留意し、上位・関連計画と整合を図りつつ、町域を下図に示す「北部地域」「南部地域」「養老地域」の3地域に区分しました。

図 地域区分

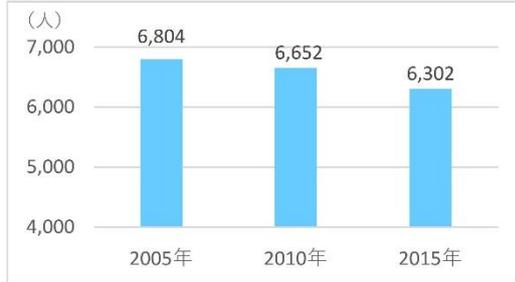


## 4-2 北部地域

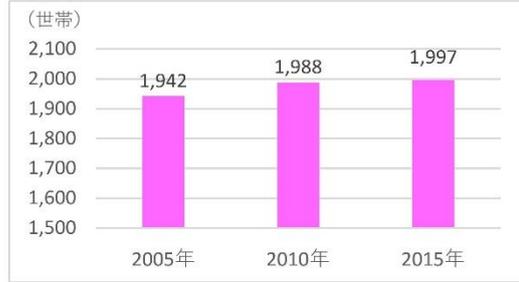
### 1. 地域の概況

#### (1) 地域カルテ

●人口



●世帯



●土地利用

		面積(ha)	構成比	
自然的 土地 利用	農地	田	592 44.8%	
		畑	52 3.9%	
		小計	644 48.8%	
	その他	山林	28 2.1%	
		水面	55 4.2%	
		その他自然地	219 16.6%	
		小計	302 22.9%	
	小計	946 71.6%		
	都市的 土地 利用	宅地	住宅用地	110 8.3%
			商業用地	20 1.5%
工業用地			55 4.2%	
小計		185 14.0%		
その他		農林漁業施設用地	2 0.2%	
		公益施設用地	28 2.1%	
		道路用地	135 10.2%	
		交通施設用地	4 0.3%	
		公共空地	2 0.2%	
		その他公的施設用地	0 0.0%	
		その他の空地	19 1.4%	
小計		190 14.4%		
小計		375 28.4%		
合計	1,321 100.0%			
可住地	763 57.8%			
非可住地	558 42.2%			

●開発許可

名称	面積(m <sup>2</sup> )
三和梱包運輸株式会社・株式会社ウエルド	7,738
河合シャワーリング株式会社	5,236
岐垣鋼業株式会社	7,215

●都市公園

名称	面積(ha)

●都市計画道路

名称	総延長(m)
1・3・1 東海環状自動車道	3,400

※図上計算

●都市施設

名称

●その他施設

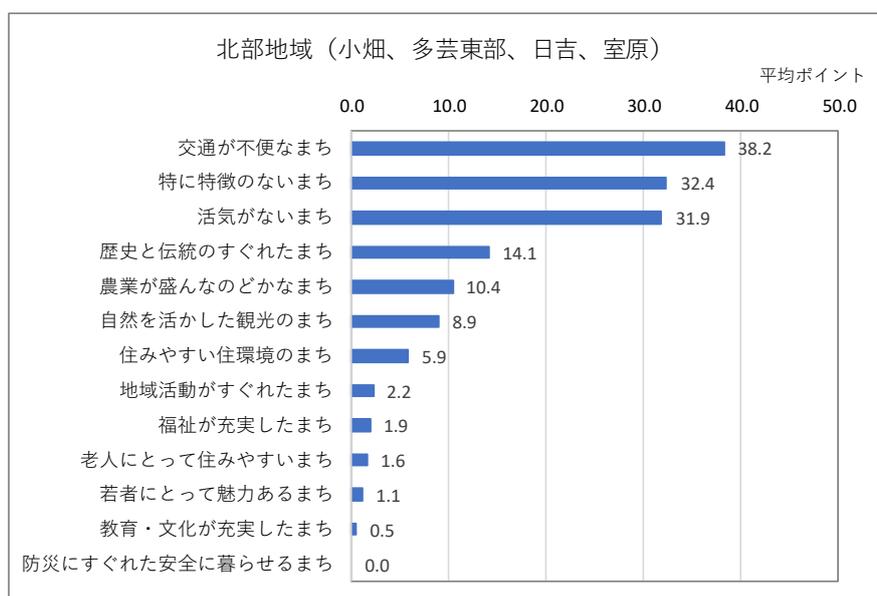
名称

●建物利用

用途名	建物棟数(棟)		建築面積(m <sup>2</sup> )		延床面積(m <sup>2</sup> )	
	棟数	構成比	面積	構成比	面積	構成比
業務施設	63	1.1%	10,224	1.6%	15,163	1.8%
商業施設	90	1.6%	28,023	4.4%	31,435	3.7%
宿泊施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
商業系用途複合施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
住宅	4,208	74.2%	308,882	48.6%	452,952	52.6%
共同住宅	40	0.7%	6,787	1.1%	14,833	1.7%
店舗等併用住宅	69	1.2%	6,469	1.0%	10,847	1.3%
店舗等併用共同住宅	4	0.1%	454	0.1%	1,113	0.1%
作業所併用住宅	9	0.2%	1,052	0.2%	1,533	0.2%
官公庁施設	7	0.1%	346	0.1%	482	0.1%
文教厚生施設	354	6.2%	48,135	7.6%	70,799	8.2%
運輸倉庫施設	168	3.0%	34,823	5.5%	46,702	5.4%
工場	477	8.4%	177,249	27.9%	199,868	23.2%
農林漁業用施設	137	2.4%	10,172	1.6%	12,332	1.4%
供給処理施設	36	0.6%	2,574	0.4%	2,877	0.3%
防衛施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	6	0.1%	204	0.0%	204	0.0%
合計	5,668	100.0%	635,392	100.0%	861,140	100.0%

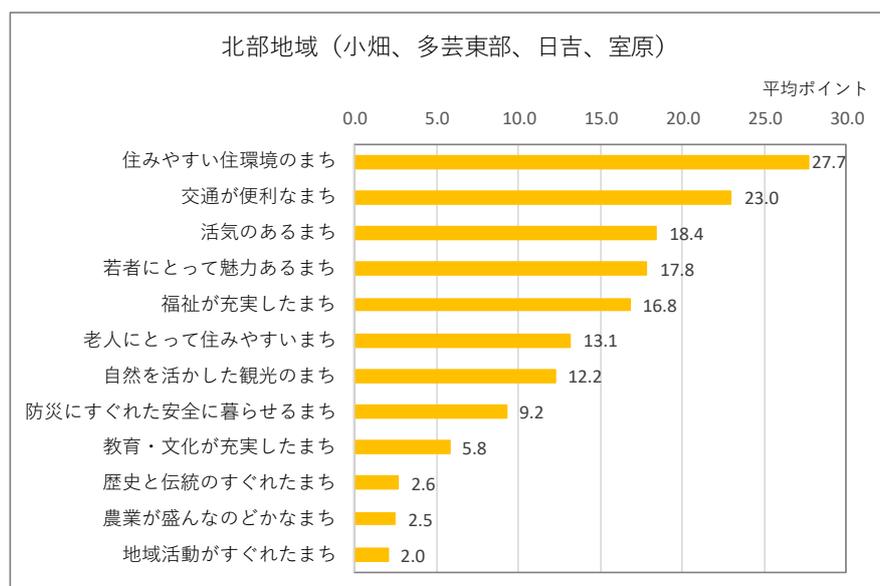
## (2) アンケートの解析結果

### ●現在の本町の印象



- ・北部地域に居住する住民の印象として多いものは「交通が不便なまち」が 38.2 ポイント、「特に特徴のないまち」が 32.4 ポイント、「活気がないまち」が 31.9 ポイントであり、マイナス要素の割合が非常に高い傾向にあります。プラス要素としては、「歴史と伝統のすぐれたまち」が 14.1 ポイントですが、上位 3 つのマイナス要素に比べ約半分のポイントとなっています。

### ●将来イメージ



- ・北部地域に居住する住民が期待する将来像のうち、最も多いのは「住みやすい住環境のまち」が 27.7 ポイントです。次いで「交通が便利なまち」が 23.0 ポイント、「活気のあるまち」が 18.4 ポイント、「若者にとって魅力あるまち」が 17.8 ポイントとなっています。

●生活環境

項目	満足 (良い)	まあ満足 (良い)	普通	やや不満 (悪い)	不満 (悪い)
	1	2	3	4	5
1) 公共交通機関の利便性					4.1
2) 生活道路（住宅まわりの道路）			3.4		
3) 歩行者に対する安全性					4.0
4) 下水道				3.6	
5) 買い物の便利さ				3.3	
6) 駐車場			2.9		
7) 騒音・悪臭などの公害			2.8		
8) 防火・防災、避難の安全性				3.1	
9) 交通安全				3.1	
10) ごみ・し尿処理			2.9		
11) 保健・医療施設				3.1	
12) 教育・文化施設				3.2	
13) レジャー、観光、スポーツ施設				3.4	
14) 福祉施設				3.3	
15) 公民館等の公益施設の整備				3.2	
16) 緑や川など自然の豊かさ		2.4			
17) 空き家対策				3.5	
18) 子供の遊び場や公園				3.7	
19) ご近所の人と人のつながり			3.0		
20) 現在の余暇時間や余暇活用				3.1	
21) まち並みの景観や雰囲気				3.2	
22) まちの活気や魅力				3.7	
23) 総合的な身のまわりの環境				3.3	

- ・満足度が最も高い項目は「緑や川など自然の豊かさ」です。次いで、「騒音・悪臭などの公害」「駐車場」「ごみ・し尿処理」等が比較的高い評価を得ている項目としてあげられますが、いずれもまあ満足（良い）に達する項目はありません。
- ・満足度が最も低い項目は「公共交通機関の利便性」です。次いで、「歩行者に対する安全性」「子供の遊び場や公園」「まちの活気や魅力」となっています。

## 2. まちづくりの現状・課題

### (1) 人口

- ・ 2005年から2015年の間に人口は502人減少し、世帯数は55世帯増加しています。そのため世帯人員が減少傾向にあります。
- ・ 北部の室原地区及び南部の宇田地区、飯田地区に人口が集積しています。

### (2) 土地利用

- ・ 土地利用としては、自然的土地利用が71.6%、都市的土地利用が28.4%となっています。特に田の占める割合は44.8%と約半分を占めています。
- ・ 宅地のうち最も割合が高いのは、住宅用地で全体の8.3%を占めています。
- ・ (一)養老赤坂線沿道では、大型商業施設が集積しています。
- ・ 養老SAスマートIC開通による立地ポテンシャルを活かしていく必要があります。

### (3) 交通体系

- ・ 大垣市と北部地域を繋ぐ(主)大垣養老公園線・(一)養老赤坂線の交通量が比較的多くなっています。
- ・ 更なる自動車交通の利便性向上のため、養老SAスマートICへのアクセス道路の整備が必要です。
- ・ 鉄道が通っていないことから、運転免許証を自主返納した高齢者等の交通弱者や移動の多い若年層等に対応した、バス等の公共交通機関の整備が必要です。あわせて、公共交通機関の乗り換えがスムーズに行える交通環境の整備が必要です。

### (4) その他

- ・ 西部に位置する象鼻山や全域に広がる田園風景は、重要な自然景観として保全していく必要があります。
- ・ 身近な公園が不足しています。
- ・ 牧田川・小畑川・色目川・杭瀬川・泥川・相川等の河川は貴重な親水空間であり、災害対策を講じつつ保全に努める必要があります。

### 3. まちづくりの方針

【将来目標】

#### 水と緑に囲まれた商・工・農の調和したまち

北部地域は、牧田川・杭瀬川や象鼻山をはじめとした水と緑からなる豊かな自然を有しており、各地に既存集落がみられます。養老 SA スマート IC 開通により立地ポテンシャルが向上したことで、工業集積や運輸業などの新規産業の企業誘致、(一)養老赤坂線沿道の商業環境の整備により産業振興を図り、商・工・農が調和したまちを目指します。

#### (1) 土地利用の方針

- ・ 点在する既存集落では、既存ストックを活かし、居住環境の維持・保全に努めます。
- ・ 基本的には、新たな宅地開発を抑制し、豊かな田園風景を維持します。
- ・ 養老 SA スマート IC 開通による立地ポテンシャルを活かし、計画的な基盤整備を行い、工業集積や運輸業などの新規産業の誘致を促進します。
- ・ (仮称)養老・大垣・安八線沿道の既存の工業地については、周辺環境と調和した良好な工業環境の維持に努めます。
- ・ (一)養老赤坂線沿道では、自動車交通に対応した日常生活サービス向上に資する商業環境を形成します。

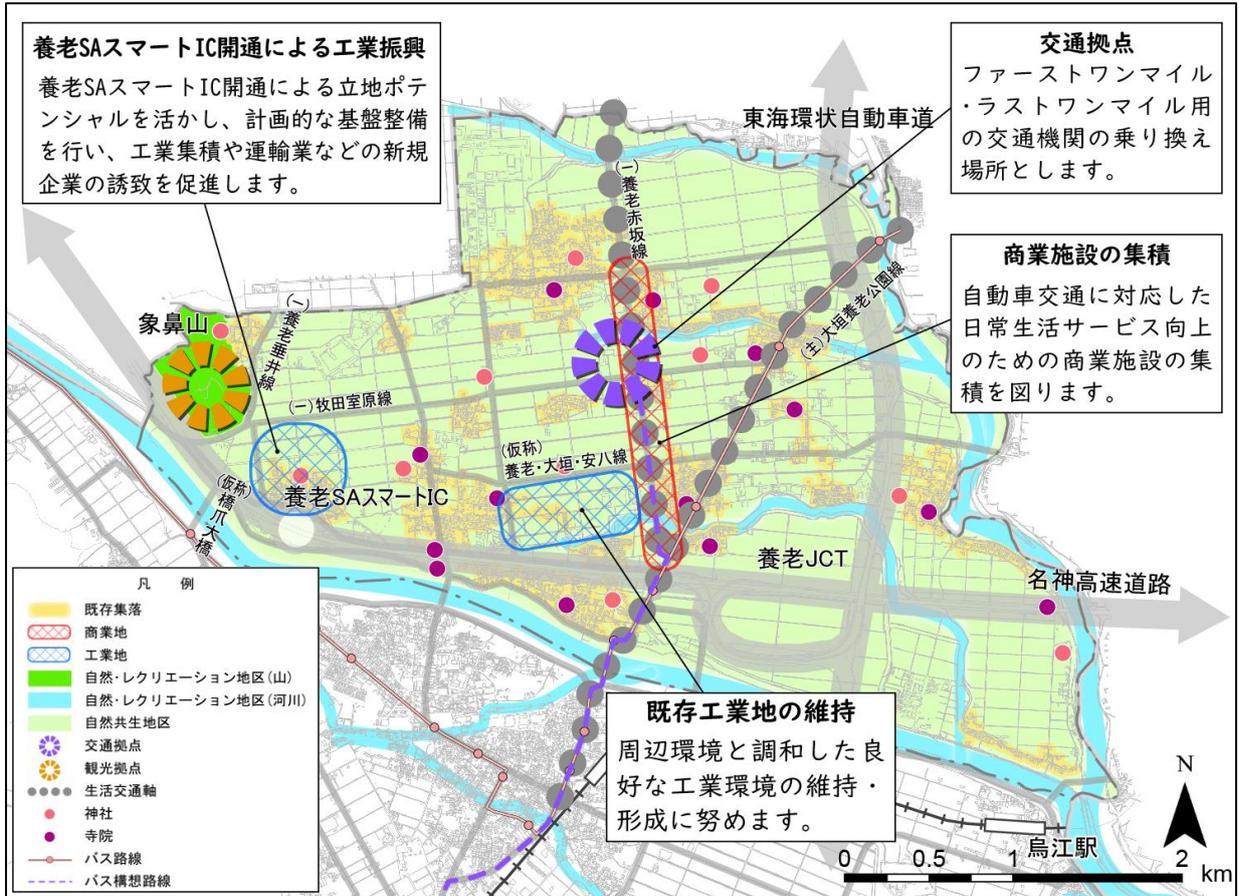
#### (2) 交通体系の方針

- ・ (主)大垣養老公園線と(一)養老赤坂線を生活交通軸として位置づけ、交通量に応じた交通環境の向上を図ります。
- ・ 養老 SA スマート IC 周辺では、自動車交通の利便性向上のためアクセス道路の充実を図ります。
- ・ 養老地域と連絡する(一)養老垂井線の一部である(仮称)橋爪大橋をはじめ、隣接する大垣市から飯田地区まで続く(仮称)養老・大垣・安八線の整備を促進します。
- ・ シームレスな公共交通ネットワークの形成のため、大型商業施設の駐車場を交通拠点として位置づけ、既存集落を結ぶファーストワンマイル・ラストワンマイル用の交通手段となる乗合いタクシーや自動運転車からバスに乗り換えることのできる交通拠点の整備を検討します。
- ・ 生活交通軸を通り、交通拠点間を結ぶバス路線を検討します。

### (3) その他の方針

- ・全域に広がる農地や象鼻山を保全し、治水機能を維持するとともに緑豊かな景観の維持を図ります。
- ・地域内に多数存在する日常的に利用しやすい神社や寺院のスペースを、子供の遊び場として活用します。
- ・豊富な水資源を有する牧田川・杭瀬川等は、岐阜県新五流域総合治水対策プランをもとに河川の改修事業や堤防の強化などの治水対策を進めます。
- ・象鼻山やその周辺を観光客にとって魅力的な観光拠点として整備します。

4. まちづくり構想図



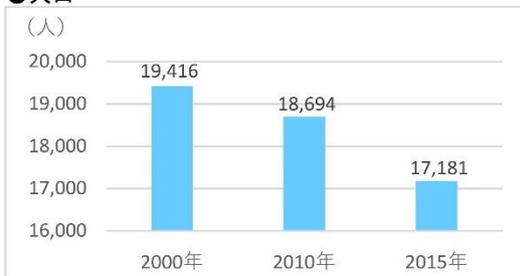
第4章

## 4-3 南部地域

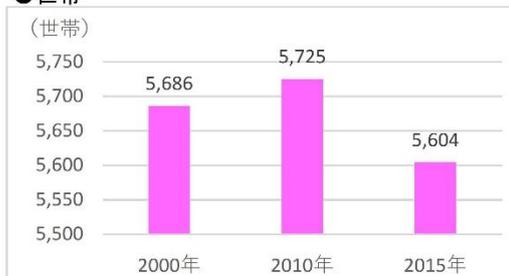
### 1. 地域の概況

#### (1) 地域カルテ

##### ●人口



##### ●世帯



##### ●土地利用

		面積(ha)	構成比
自然的 土地利用	農地	田	1,673 53.3%
		畑	135 4.3%
		小計	1,808 57.6%
	その他	山林	4 0.1%
		水面	168 5.4%
		その他自然地	306 9.8%
小計	478 15.2%		
小計	2,286 72.9%		
都市的 土地利用	宅地	住宅用地	298 9.5%
		商業用地	32 1.0%
		工業用地	70 2.2%
		小計	400 12.8%
	その他	農林漁業施設用地	21 0.7%
		公益施設用地	68 2.2%
		道路用地	274 8.7%
		交通施設用地	21 0.7%
		公共空地	13 0.4%
		その他公的施設用地	0 0.0%
		その他の空地	54 1.7%
		小計	451 14.4%
	小計	851 27.1%	
合計	3,137 100.0%		
可住地	2,143 68.3%		
非可住地	994 31.7%		

##### ●開発許可

名称	面積(m <sup>2</sup> )	名称	面積(m <sup>2</sup> )
㈱サラダコスモ	60,653	㈱秀商	7,713
濃飛倉庫運輸㈱	21,269	㈱ナフコ	13,007
ゲンキー㈱	5,232		

##### ●都市公園

名称	面積(ha)
中央公園	6.2

##### ●都市計画道路

名称	総延長(m)
1・3・1 東海環状自動車道	6,960
3・3・3 一般国道258号	1,700
3・4・4 養老インター線	2,280
3・6・1 高田石畑線	1,520
3・6・2 高田五日市線	2,060

※図上計算

##### ●都市施設

名称
・養老町立食肉事業センター
・養老町斎場(清華苑)
・養老町公共下水道

##### ●その他施設

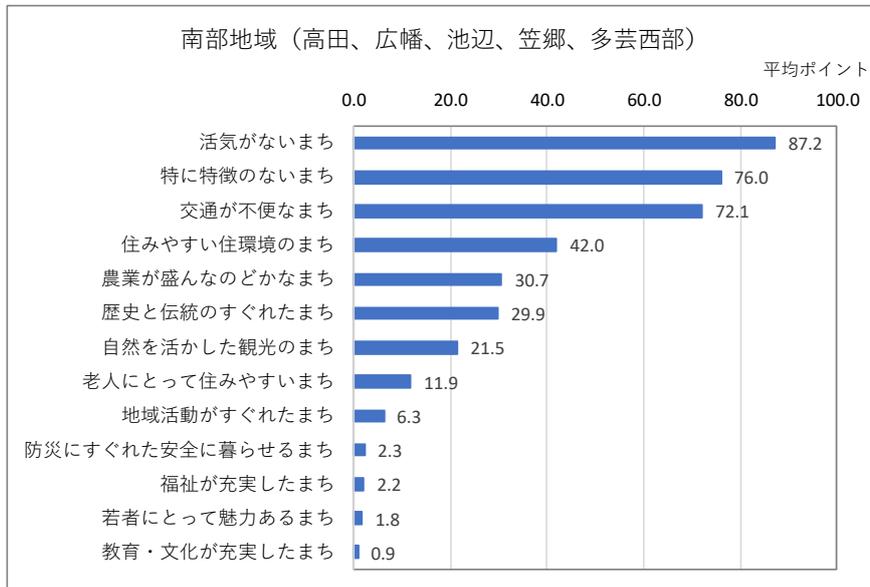
名称
・南濃衛生施設利用事務組合汚物処理場
・よろろうドリームパーク(南濃清掃センター)
・西南濃粗大廃棄物処理センター

##### ●建物利用

用途名	建物棟数(棟)		建築面積(m <sup>2</sup> )		延床面積(m <sup>2</sup> )	
		構成比		構成比		構成比
業務施設	222	1.5%	48,094	3.1%	71,439	3.2%
商業施設	233	1.6%	60,807	4.0%	72,944	3.3%
宿泊施設	8	0.1%	3,426	0.2%	9,176	0.4%
商業系用途複合施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
住宅	10,827	75.6%	841,157	54.9%	1,261,124	56.5%
共同住宅	92	0.6%	13,143	0.9%	29,054	1.3%
店舗等併用住宅	436	3.0%	48,773	3.2%	83,134	3.7%
店舗等併用共同住宅	1	0.0%	137	0.0%	260	0.0%
作業所併用住宅	42	0.3%	7,224	0.5%	10,923	0.5%
官公庁施設	28	0.2%	4,534	0.3%	11,119	0.5%
文教厚生施設	740	5.2%	107,511	7.0%	175,894	7.9%
運輸倉庫施設	385	2.7%	75,262	4.9%	92,212	4.1%
工場	684	4.8%	193,395	12.6%	249,898	11.2%
農林漁業用施設	527	3.7%	104,809	6.8%	111,846	5.0%
供給処理施設	96	0.7%	22,074	1.4%	53,812	2.4%
防衛施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	6	0.0%	646	0.0%	646	0.0%
合計	14,327	100.0%	1,530,992	100.0%	2,233,481	100.0%

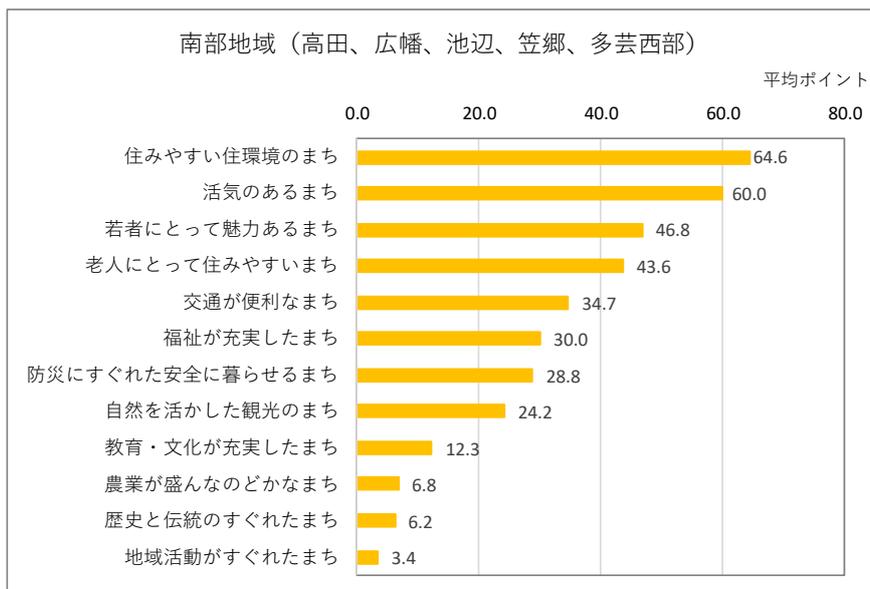
(2) アンケートの解析結果

●現在の本町の印象



- 南部地域に居住する住民の印象として多いものは「活気がないまち」が 87.2 ポイント、「特に特徴のないまち」が 76.0 ポイント、「交通が不便なまち」が 72.1 ポイントであり、マイナス要素の割合が非常に高い傾向にあります。プラス要素としては、「住みやすい住環境のまち」が 42.0 ポイントですが、上位 3 つのマイナス要素に比べ約半分のポイントとなっています。

●将来イメージ



- 南部地域に居住する住民が期待する将来像のうち、最も高いのは「住みやすい住環境のまち」が 64.6 ポイントです。次いで「活気のあるまち」が 60.0 ポイント、「若者にとって魅力あるまち」が 46.8 ポイント、「老人にとって住みやすいまち」が 43.6 ポイントとなっています。

## ●生活環境

項目	満足 (良い)	まあ満足 (良い)	普通	やや不満 (悪い)	不満 (悪い)
	1	2	3	4	5
1) 公共交通機関の利便性					3.9
2) 生活道路（住宅まわりの道路）			3.1		
3) 歩行者に対する安全性				3.4	
4) 下水道				3.2	
5) 買い物の便利さ			3.0		
6) 駐車場			2.9		
7) 騒音・悪臭などの公害			2.9		
8) 防火・防災、避難の安全性			3.1		
9) 交通安全			2.9		
10) ごみ・し尿処理			2.9		
11) 保健・医療施設			3.0		
12) 教育・文化施設			3.2		
13) レジャー、観光、スポーツ施設			3.3		
14) 福祉施設			3.2		
15) 公民館等の公益施設の整備			3.0		
16) 緑や川など自然の豊かさ		2.5			
17) 空き家対策				3.5	
18) 子供の遊び場や公園				3.6	
19) ご近所の人と人のつながり			3.0		
20) 現在の余暇時間や余暇活用			3.0		
21) まち並みの景観や雰囲気			3.1		
22) まちの活気や魅力				3.7	
23) 総合的な身のまわりの環境				3.3	

・満足度が最も高い項目は「緑や川など自然の豊かさ」です。次いで、「駐車場」「騒音・悪臭などの公害」「交通安全」「ごみ・し尿処理」等が比較的高い評価を得ている項目としてあげられますが、いずれもまあ満足（良い）に達する項目はありません。

・満足度が最も低い項目は「公共交通機関の利便性」です。次いで、「まちの活気や魅力」「子供の遊び場や公園」「空き家対策」となっています。

## 2. まちづくりの現状・課題

### (1) 人口

- ・ 2005 年から 2015 年までの間に人口は 2,235 人減少し、世帯数は 82 世帯減少しています。大幅な人口減少により世帯人員は減少傾向にあります。
- ・ 美濃高田駅や烏江駅周辺に人口が集積しています。

### (2) 土地利用

- ・ 土地利用としては、自然的土地利用が 72.9%、都市的土地利用が 27.1%となっています。特に田の占める割合が 53.3%と約半分を占めています。
- ・ 宅地のうち最も割合が高いのは、住宅用地となっており全体の 9.5%を占めています。また、(都)高田五日市線沿道については、小売店が集積していますが、近年の大型商業施設の出店の影響や自動車でのアクセス性が乏しいことなどから、集客力の低迷が見込まれます。
- ・ 養老 IC 開通や南部地域南部に開通予定の(仮称)海津スマート IC による交通立地環境の変化に対応していく必要があります。
- ・ 2000 年まで DID に指定されていた中心市街地である高田地区においては、既存ストックに恵まれているため、今後も有効活用を図る必要があります。

### (3) 交通体系

- ・ 都市計画道路が 5 路線計画決定されていますが、(都)養老インター線・(都)高田石畑線・(都)高田五日市線の 3 路線については未着手部分があります。
- ・ 東海環状自動車道西回り区間における養老 IC 以南の整備を進める必要があります。
- ・ 美濃高田駅・烏江駅周辺において、環境や渋滞を考慮し、パークアンドライド等の駐車場を整備する必要があります。
- ・ 中心市街地と既存集落を結ぶ交通ネットワークが不足しています。

### (4) その他

- ・ ようろうドリームパーク（南濃清掃センター）や西南濃粗大廃棄物処理センターの環境対策の強化を図る必要があります。
- ・ 高田地区に中央公園がありますが、身近な公園が不足しています。
- ・ 中心市街地である高田地区に多くの空き家が点在しています。
- ・ 超高齢社会を見据え、多くの人々が利用する美濃高田駅・烏江駅周辺のバリアフリー化を推進する必要があります。
- ・ 美濃高田駅周辺の建物の老朽化率は 59.1%であり、非常に高い水準となっています。
- ・ 南濃衛生施設利用事務組合汚物処理場は、老朽化が進んでいることから建替え等の検討が必要です。
- ・ 養老町斎苑（清華苑）は、多様化する住民ニーズに的確に対応する必要があります。
- ・ 本町の食肉産業の振興を図るため、食肉産業施設の拡充が必要です。

### 3. まちづくりの方針

#### 【将来目標】

#### 賑わいのある中心市街地と緑豊かな田園が共存するまち

南部地域は、本町の人口の約6割が居住しており、特に高田地区は中心市街地としての都市機能を有しています。しかし近年では、人口減少が進行していることから、都市としての機能を維持する必要があります。また、南部の大巻地区など広大な田園も広がっていることから、高田地区の賑わいのある市街地と大巻地区などの田園が共存するまちを目指します。

#### (1) 土地利用の方針

- ・高田地区は、空き地・空き家を利活用することで市街地の再生を促進し、都市機能を維持します。
- ・烏江駅周辺は、優良な農地と調和を図りつつ市街地を維持・誘導します。
- ・新たな住居系土地利用の需要に際しては、美濃高田駅及び烏江駅周辺市街地の低未利用地の活用を図ります。
- ・養老IC開通による立地ポテンシャルを活かし、周辺地域での計画的な基盤整備を行い、工業の集積や運輸業などの新規産業の誘致を促進します。
- ・一般国道258号沿道は、自動車交通に対応した近隣住民に魅力的な商業環境を維持し、商業施設の集積を図ります。
- ・(一)養老平田線の沿道に、食肉産業施設や農業加工施設、農家レストランなどの6次産業施設の誘導や、本町の特産ブランド認証品を販売する道の駅のような観光客向けの商業環境の形成を図ります。

#### (2) 交通体系の方針

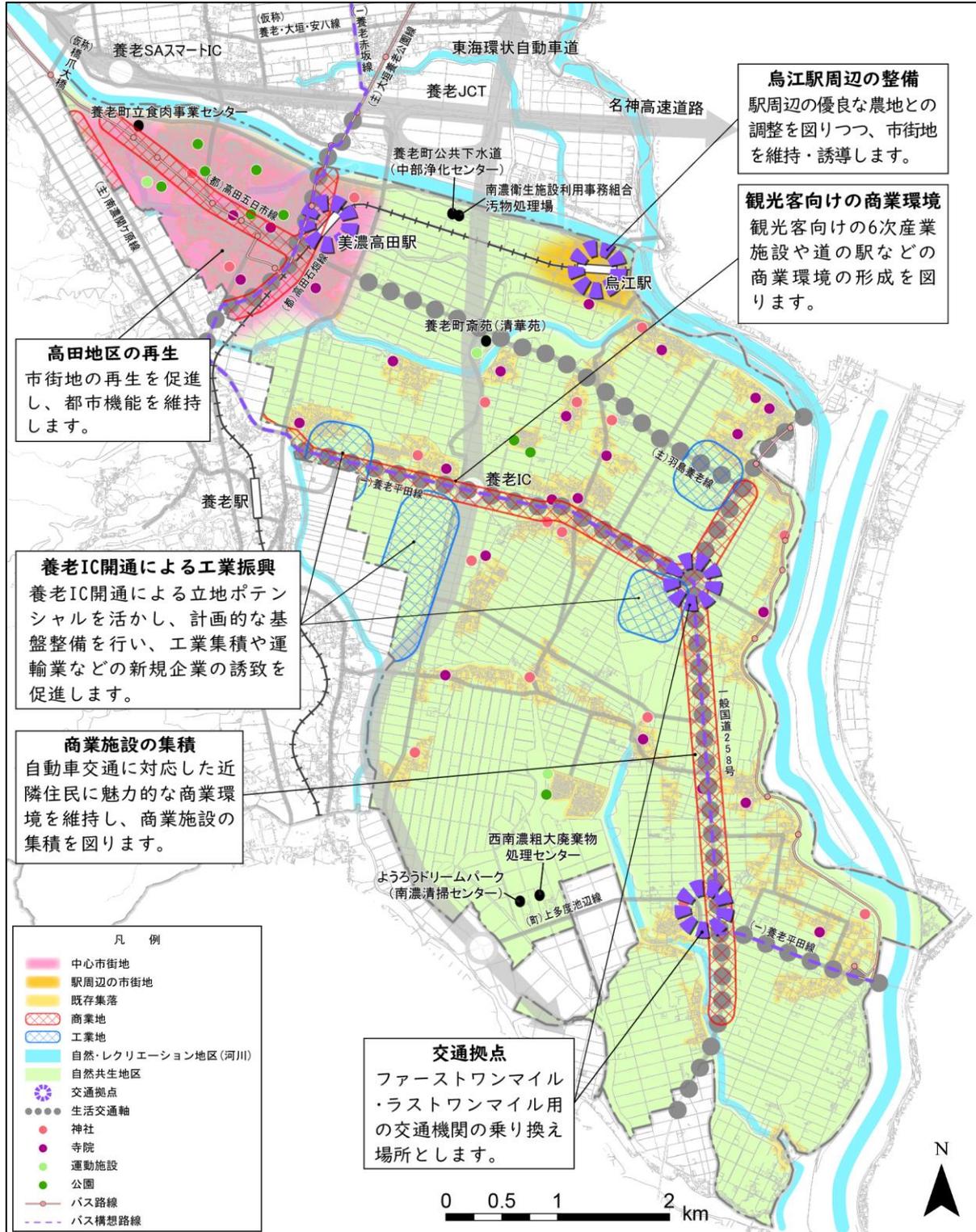
- ・一般国道258号・(主)羽島養老線・(一)養老平田線を生活交通軸と位置づけ、交通量に応じた交通環境の向上を図ります。
- ・未着手部分のある(都)養老インター線・(都)高田石畑線・(都)高田五日市線及び養老IC以南の(都)東海環状自動車道については、早期整備を図ります。
- ・養老IC周辺では、自動車交通の利便性向上のためアクセス道路の充実を図ります。
- ・環境や渋滞を考慮し、美濃高田駅や烏江駅周辺にパークアンドライド等の駐車場を整備します。
- ・中心市街地である高田地区や、烏江駅周辺の市街地と既存集落を結ぶ交通ネットワークの充実を図ります。

- ・ シームレスな公共交通ネットワークの形成のため、美濃高田駅や烏江駅、大型商業施設の駐車場等を交通拠点として位置づけ、既存集落を結ぶファーストワンマイル・ラストワンマイルの交通手段となる乗合いタクシーや自動運転車から鉄道やバスに乗り換えることのできる交通拠点の整備を検討します。
- ・ 生活交通軸を通り、交通拠点間を結ぶバス路線を検討します。
- ・ 既存集落では、歩車道の分離がなされていない道路が散見されるため、必要に応じて歩車道境界ブロックの設置等、道路環境の整備を検討します。

### (3) その他の方針

- ・ 南部の大巻地区は豊かな田園を有していることから、農業基盤の整備を図り、農業生産環境の改良に努めます。
- ・ 環境対策の強化として、ようろうドリームパーク（南濃清掃センター）や西南濃粗大廃棄物処理センターなどのごみ処理施設の拡充を図ります。
- ・ 地域内に多数存在する日常的に利用しやすい神社や寺院等のスペースを、子供の遊び場として活用します。
- ・ 中心市街地である高田地区における空き家については、良好な居住環境を維持するため、適切な管理のもと必要に応じて利活用を検討します。
- ・ 中心市街地における老朽化建物の耐震化などによる災害対策を進めます。
- ・ 超高齢社会を見据え、美濃高田駅・烏江駅周辺のスロープや手すり設置等のバリアフリー化を推進します。
- ・ 牧田川沿いの南濃衛生施設利用事務組合汚物処理場は、施設の建替えにより老朽化への対応を行い、また、汚泥の資源化等の循環型社会形成に資する施設を図ります。
- ・ 中央部に位置する養老町斎苑（清華苑）は、多様化する住民ニーズに沿った公営斎苑を目指し、円滑な施設運用を図ります。
- ・ 食肉産業の更なる振興のため、養老町立食肉事業センターのほかに、新たに食肉基幹市場の建設を検討します。

4. まちづくり構想図

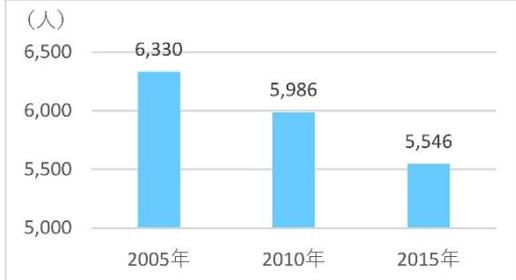


## 4-4 養老地域

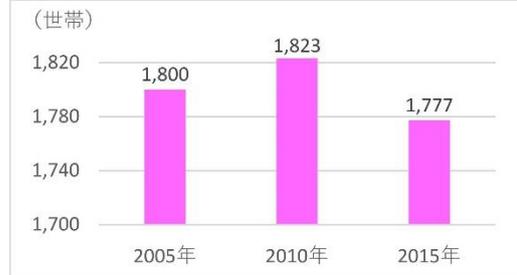
### 1. 地域の概況

#### (1) 地域カルテ

##### ●人口



##### ●世帯



##### ●土地利用

		面積(ha)	構成比
自然的土地利用	農地	田	206 7.5%
		畑	124 4.5%
	小計	330 12.0%	
	その他	山林	1,850 67.2%
		水面	25 0.9%
その他自然地		146 5.3%	
小計	2,021 73.4%		
小計	2,351 85.4%		
都市的土地利用	宅地	住宅用地	128 4.6%
		商業用地	25 0.9%
		工業用地	23 0.8%
	小計	176 6.4%	
	その他	農林漁業施設用地	6 0.2%
		公益施設用地	23 0.8%
		道路用地	85 3.1%
		交通施設用地	9 0.3%
		公共空地	74 2.7%
		その他公的施設用地	0 0.0%
		その他の空地	30 1.1%
	小計	227 8.2%	
	小計	403 14.6%	
合計	2,754 100.0%		
可住地	474 17.2%		
非可住地	2,280 82.8%		

##### ●開発許可

名称	面積(m <sup>2</sup> )
(有)池田製作所	11,523
桜井建設株式会社	17,973
エイキット株式会社	17,120

##### ●都市公園

名称	面積(ha)
養老公園	87.2

##### ●都市計画道路

名称	総延長(m)

##### ●都市施設

名称

##### ●その他施設

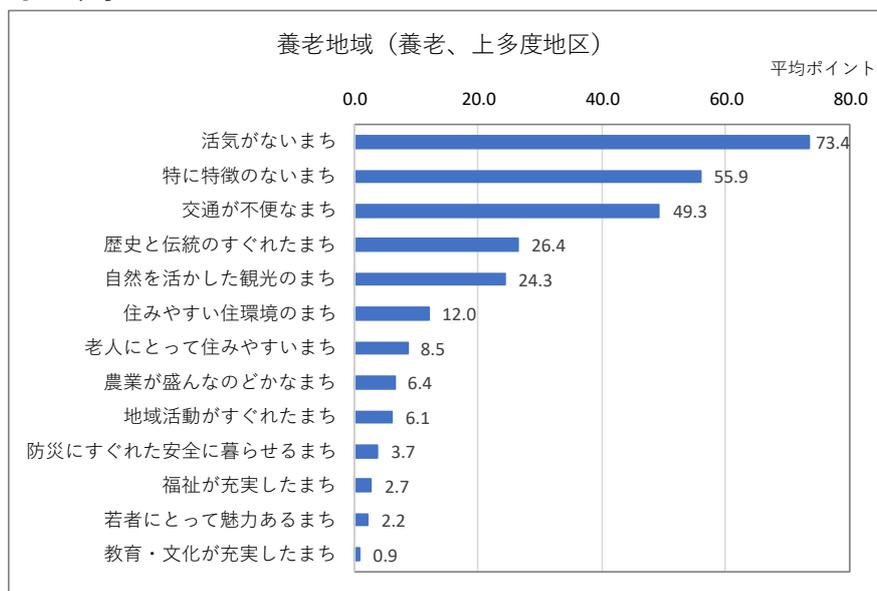
名称

##### ●建物利用

用途名	建物棟数(棟)		建築面積(m <sup>2</sup> )		延床面積(m <sup>2</sup> )	
	棟数	構成比	面積	構成比	面積	構成比
業務施設	92	1.7%	17,110	3.1%	25,713	3.4%
商業施設	111	2.1%	19,647	3.5%	22,867	3.1%
宿泊施設	41	0.8%	6,010	1.1%	11,313	1.5%
商業系用途複合施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
住宅	3,906	72.9%	304,982	54.9%	433,464	58.0%
共同住宅	34	0.6%	6,372	1.1%	12,713	1.7%
店舗等併用住宅	114	2.1%	11,610	2.1%	18,286	2.4%
店舗等併用共同住宅	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
作業所併用住宅	8	0.1%	1,153	0.2%	1,400	0.2%
官公庁施設	4	0.1%	885	0.2%	1,937	0.3%
文教厚生施設	408	7.6%	52,684	9.5%	68,738	9.2%
運輸倉庫施設	122	2.3%	25,397	4.6%	27,096	3.6%
工場	238	4.4%	82,019	14.8%	94,253	12.6%
農林漁業用施設	252	4.7%	25,685	4.6%	27,575	3.7%
供給処理施設	26	0.5%	1,857	0.3%	1,857	0.2%
防衛施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	2	0.0%	240	0.0%	240	0.0%
合計	5,358	100.0%	555,651	100.0%	747,452	100.0%

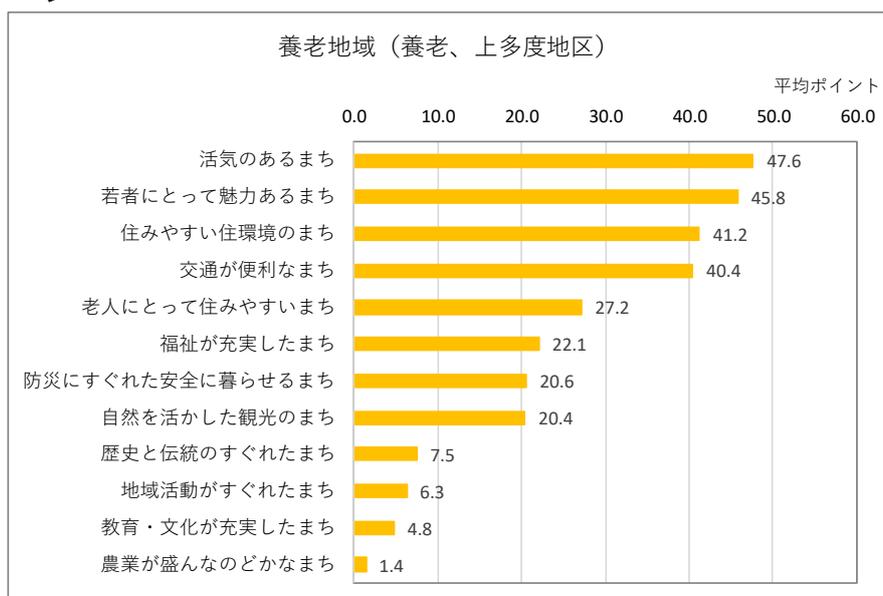
## (2) アンケートの解析結果

### ●現在の本町の印象



- ・養老地域に居住する住民の印象として多いものは「活気がないまち」が73.4ポイント、「特に特徴のないまち」が55.9ポイント、「交通が不便なまち」が49.3ポイントであり、マイナス要素の割合が非常に高い傾向にあります。プラス要素としては「歴史と伝統のすぐれたまち」が26.4ポイント、「自然を活かした観光のまち」が24.3ポイントですが、「活気がないまち」の約3分の1に留まっています。

### ●将来イメージ



- ・養老地域に居住する住民が期待する将来像のうち、最も高いのは「活気のあるまち」が47.6ポイントです。次いで「若者にとって魅力あるまち」が45.8ポイント、「住みやすい住環境のまち」が41.2ポイント、「交通が便利なまち」が40.4ポイントとなっています。

●生活環境

項目	満足 (良い)	まあ満足 (良い)	普通	やや不満 (悪い)	不満 (悪い)
	1	2	3	4	5
1) 公共交通機関の利便性				●	
2) 生活道路（住宅まわりの道路）				●	
3) 歩行者に対する安全性				●	
4) 下水道			●		
5) 買い物の便利さ				●	
6) 駐車場			●		
7) 騒音・悪臭などの公害			●		
8) 防火・防災、避難の安全性			●		
9) 交通安全			●		
10) ごみ・し尿処理			●		
11) 保健・医療施設			●		
12) 教育・文化施設			●		
13) レジャー、観光、スポーツ施設				●	
14) 福祉施設			●		
15) 公民館等の公益施設の整備			●		
16) 緑や川など自然の豊かさ		●			
17) 空き家対策				●	
18) 子供の遊び場や公園				●	
19) ご近所の人と人のつながり			●		
20) 現在の余暇時間や余暇活用			●		
21) まち並みの景観や雰囲気				●	
22) まちの活気や魅力				●	
23) 総合的な身のまわりの環境				●	

・満足度が最も高い項目は「緑や川など自然の豊かさ」です。次いで、「騒音・悪臭などの公害」「ごみ・し尿処理」「駐車場」「交通安全」「ご近所の人と人のつながり」等が比較的高い評価を得ている項目としてあげられますが、いずれもまあ満足（良い）に達する項目はありません。

・満足度が最も低い項目は「公共交通機関の利便性」です。次いで、「空き家対策」「まちの活気や魅力」「歩行者に対する安全性」となっています。

## 2. まちづくりの現状・課題

### (1) 人口

- ・2005年から2015年までの間に人口は784人減少し、世帯数は23世帯減少しています。そのため世帯人員は減少傾向にあります。
- ・養老山地の麓沿いや一色地区に人口が集積しています。

### (2) 土地利用

- ・土地利用として、自然的土地利用が85.4%、都市的土地利用が14.6%となっています。特に山林の占める割合が67.2%と大半を占めています。
- ・宅地のうち最も割合が高いのは、住宅用地となっており全体の4.6%を占めています。また、北部には工場が集積しています。
- ・緑豊かな自然と歴史を持つ広大な養老山地が養老地域のシンボルとなっています。
- ・養老駅周辺では、公共交通が充実していますが、低未利用地が多くみられるため、利活用を図る必要があります。

### (3) 交通体系

- ・養老山地の麓の住民が養老駅や中心市街地まで移動するための公共交通機関が乏しく、その拡充が必要です。また、生活道路が狭あいであることから交通環境の整備が必要です。
- ・養老駅周辺では観光客による交通混雑が生じる可能性があることから、周辺道路や公共交通の拡充が必要です。

### (4) その他

- ・養老山地をはじめとする豊かな自然を有しており、植樹等により景観の維持を図る必要があります。
- ・養老公園や揖斐関ヶ原養老国定公園がありますが、身近な公園が不足しています。
- ・大半を山林が占めていることから、台風や豪雨の際に土砂災害が発生する可能性が高いため、ハード面とソフト面の両面での防災・減災対策が必要です。
- ・養老公園には年間100万人を超える観光客が訪れており、本町の観光業を支えています。
- ・柏尾廃寺跡や元正天皇行幸遺跡が県指定文化財に指定されています。

### 3. まちづくりの方針

【将来目標】

#### 歴史・文化の息づく誇りある観光のまち

養老地域は、観光客数年間100万人超を誇る養老公園や、本町の特産である食肉を活かした焼肉街道などの観光地を有しています。西部には広大な養老山地が広がっているほか、柏尾廃寺跡などの県指定文化財があります。これらの歴史・文化資源を活用し、本町の観光地としての魅力の向上を図るとともに、自然環境や景観を維持・保全し、誇りあるまちを目指します。

#### (1) 土地利用の方針

- ・養老駅周辺は、生活道の整備や空き地・空き家の有効活用により、住環境の向上を図り、市街地を維持・誘導を行います。
- ・(主)南濃関ヶ原線北西側の沿道の既存工業地については、周辺環境と調和した良好な工業環境の維持・形成に努めます。
- ・(主)南濃関ヶ原線沿道は、本町の特産である食肉を活かした焼肉街道の更なる充実を図り、観光客に魅力的な観光街道としてふさわしい商業環境を形成します。

#### (2) 交通体系の方針

- ・(主)南濃関ヶ原線や(主)大垣養老公園線を生活交通軸として位置づけ、交通量に応じた交通環境の向上を図ります。
- ・(主)南濃関ヶ原線の北部沿道の焼肉街道へのアクセス道路の強化・充実を図ります。
- ・(仮称)橋爪大橋の早期整備を推進するとともに、北部地域とのアクセス向上を図ります。
- ・養老公園周辺においては、自動車による観光客増加に伴う交通混雑に対応するため、交通環境の向上を図ります。
- ・シームレスな公共交通ネットワークの形成のため、養老駅を交通拠点として位置づけ、既存集落を結ぶファーストワンマイル・ラストワンマイルの交通手段となる乗合いタクシーや自動運転車から鉄道やバスに乗り換えることのできる交通拠点の整備を検討します。
- ・観光客に対応した養老公園と焼肉街道、象鼻山を結ぶバスルートを検討します。
- ・生活交通軸を通り、交通拠点間を結ぶバス路線を検討します。

### (3) その他の方針

- ・ 養老山地においては、「養老町観光景観林総合整備計画」に基づき、植樹等により景観の維持を図り、観光地としての魅力の向上につなげます。
- ・ 地域内に多数存在する、神社や寺院、揖斐関ヶ原養老国定公園の麓等、日常的に利用しやすいスペースを子供の遊び場として活用します。
- ・ 近年増加している外国人観光客に対応するため、多言語の案内板の整備を進めます。
- ・ 焼肉街道の魅力の向上を図り、観光客の受け入れ体制の整備や養老公園のリニューアルを県に要請し、観光拠点として整備します。
- ・ 養老山地に分布する森林は、治山に結びつく防災上重要な役割を果たすものです。砂防指定地や土砂災害特別警戒区域等の指定による土地利用の規制を踏まえ、無秩序な開発行為を抑制し、保全に努めます。
- ・ 養老山地における土砂災害等の災害の危険性を考慮して、ハード面の整備をはじめ、ハザードマップ等を活用し、災害危険箇所や避難経路、避難場所の周知に努め、防災・減災力の向上を図ります。

4. まちづくり構想図



## 用語集

用語集



# 用語集

あ行	
用語	解説
インバウンド	外国人の訪日旅行。
インフラ	インフラストラクチャーの略。道路、橋りょう、ダム、学校、病院、鉄道、上下水道、電気、ガス、電話など経済・生産基盤を形成するものの総称。
汚水管渠	分流式下水道において、下水を流下させる管。
オンデマンドバス	交通不便地域の解消や高齢者・障がい者などの外出が困難な人の日常生活の移動手段を確保するために、決まった時刻に、決まった経路を移動する路線運行ではなく、乗客の希望に応じて予約制で移動し、乗客がいなければ運行しない小型バス。

か行	
用語	解説
街区公園	住区基幹公園の1つで、主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園。
合併処理浄化槽	水洗トイレからの汚水（し尿）や台所・風呂などからの排水（生活雑排水）を微生物の働きなどを利用して浄化し、きれいな水にして放流するための施設。
既存ストック	これまでに整備された都市基盤（道路・鉄道・上下水道など）や公共施設、建築物などの蓄積。
基盤整備	道路、鉄道、河川、上下水道、エネルギー供給施設、通信施設などの都市施設や学校、病院、公園などの公共施設といった、住民の生活や産業活動を支える施設。
岐阜県新五流域総合治水対策プラン	長良川、揖斐川、木曾・飛騨川、土岐川、宮川の5流域において、水害に対する安全・安心を高めていくための将来ビジョン。
狭あい道路	幅員が狭く、自動車の通行に支障を来す道路。
共助	町内会や学校区くらいの顔の見える範囲内における地域コミュニティで災害発生時に力を合わせるという考え。
緊急輸送道路	地震直後から発生する緊急輸送を円滑に行うため、高速自動車国道、一般国道及びこれらを連絡する幹線道路と知事が指定する防災拠点を相互に連絡する道路。
近隣公園	住区基幹公園の1つで、主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園。
グリーン・ツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。
国立公園	自然公園法に規定される、自然公園（優れた自然の風景地やそれに準ずる地域）の1つ。このうち、国立公園は、国立公園に準じる景勝地として環境大臣が指定し、所在の都道府県が管理するもの。
コミュニティ・プラント	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づいて市町村が定める一般廃棄物処理計画に沿って設置され、管渠によって集められたし尿及び生活雑排水を併せて処理する施設。

さ行	
用語	解説
砂防指定地	砂防法第2条に基づき、治水上砂防のための砂防設備を要する土地または一定の行為を禁止し若しくは制限すべき土地として、国土交通大臣が指定した一定の土地の区域。
シームレス	継ぎ目のない。
市街化区域	都市計画区域のうち、すでに市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的・計画的に市街化を図るべき区域。
自助	災害時に自分自身の命は自分で守るという考え。
集約型都市構造	中心市街地や鉄道駅などの周辺において、歩いて暮らせる範囲に市街地のスケールを保ち、生活に必要な都市機能が集約した都市構造。
住区基幹公園	住民の生活行動圏域により配置される都市公園で、地区公園、近隣公園、街区公園に分類される。
循環型社会	有限である資源を効率的に利用するとともに再生産を行って、持続可能な形で循環させながら利用していく社会。
親水空間	水と親しむことを主目的とした場所。
水防計画	洪水、内水等による水災を警戒し、防ぎよし、及びこれによる被害を軽減する目的をもって、県下各河川に対する水防上必要な監視、予防、警報、通信、輸送及びダム又は重要水閘門の操作、水防のための水防団及び消防機関の活動、避難の指導、水防管理団体相互間における協力及び応援並びに水防に必要な器具、資材及び施設の整備及び運用について実施の大綱を示したもの。
総合計画	町が長期的な展望の下で自治体運営の基本理念やあるべき姿を定めた、行財政運営の総合的な指針となる計画。
ゾーン	区域、地域。

た行	
用語	解説
地域ブランド	地域を主に経済的な側面から捉えたときの、生活者が認識する様々な地域イメージの総体。
地域防災計画	ある一定の地域において、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、各防災機関の任務を明確にし、全力をあげて災害の発生を防止し、さらに応急的援助を行うなど被害の軽減に努めるよう、事前の対策をまとめたもの。
地域未来投資促進法	地域の特性を生かして、高い付加価値を創出し、地域の事業者に対する相当の経済的効果を及ぼす「地域経済牽引事業」を促進することを目的とする法律。
治山機能	山崩れなどによる災害を未然に防止する機能。
治水機能	河川の氾濫や高潮による災害を未然に防止する機能。
低未利用地	土地基本法において、土地は国民のための限られた貴重な資源であり、適正かつ合理的な利用をすべきものとして位置付けられているが、こうした観点に立ったときに、本来、建築物などが建てられその土地にふさわしい利用がなされるべきと考えられる土地において、そのような利用がなされていない場合。

た行	
用語	解説
都市基盤	一般的に道路・街路、鉄道、河川、上下水道、エネルギー供給施設、通信施設などの生活・産業基盤や学校、病院、公園などの公共施設。
都市計画区域マスタープラン	都市計画法第6条の2の規定に基づく都市計画区域の整備、開発及び保全の方針のこと。一体の都市として整備、開発及び保全すべき区域として定められる都市計画区域全域を対象とし、その区域ごとに、都道府県が1市町村を越える広域的な見地から、区域区分をはじめとして都市計画の基本的な方針を定める。
都市公園	都市計画施設である公園又は緑地で、地方公共団体又は国が設置するもの。また、地方公共団体が都市計画区域内において設置する公園又は緑地のこと。公園の種別としては、街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園、広域公園、特殊公園があるが、公園の機能に応じた規模の適正化を図るため、公園種別に応じた規模を基準として定めている。
都市施設	道路、公園、下水道など、都市の骨格を形成し、円滑な都市活動を確保し、良好な都市環境を保持するための施設の総称。都市計画法では道路、鉄道などの交通施設や公園、緑地などの公共空地等。
都市モニタリングシート	都市のおかれている状況を客観的に把握するために、都市計画に関する種々の現況を把握した都市計画年報のほか、各種基幹統計等に収納されている都市に関する多様なデータを一元的にまとめ、全体表と個表（市町村毎）に整理したもの。
土砂災害特別警戒区域	土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域であり、一定の開発行為や居室を有する建築物の構造が規制されている土地の区域。
土地区画整理事業	宅地の利用増進と道路、公園等の公共施設の整備・改善を図るための市街地整備手法の1つ。

な行	
用語	解説
南海トラフ地震	南海トラフ沿いを震源域とする巨大地震。
日常生活サービス機能	診療所や介護施設、食料品や日用品を扱う商店、現金を引き出すための金融機関など日常生活において欠かせないサービス機能。
農業集落排水	一般の公共下水道とは別に農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水などを処理すること。

は行	
用語	解説
パークアンドライド	自宅から自家用車で最寄りの駅又はバス停まで行き、車を駐車させた後、バスや鉄道等の公共交通機関を利用して都心部の目的地に向かうシステム。
ハザードマップ	災害想定区域や避難場所、避難情報の伝達経路、過去の災害実績等を住民にわかりやすく示した図。

は行	
用語	解説
ハブ	中核、結節点。
バリアフリー	障がい者や高齢者が行う諸活動に不便な障壁（バリアー）がない状態のこと。例えば、階段の代わりに緩やかなスロープを設置することや、道路の段差がない状況のことをいう。
ファーストワンマイル・ラストワンマイル	自宅から交通拠点（公共交通の乗降場所）、交通拠点から自宅までの道のり。
ポテンシャル	潜在的に有する機能・能力や可能性。

ま行	
用語	解説
道の駅	各自治体と道路管理者が連携して設置し、国土交通省により登録された、商業施設・休憩施設・地域振興施設等が一体となった道路施設。
モビリティサービス	自動車を移動・輸送の用途に利用するサービスの手段と位置づけ、このサービスを円滑に提供するための一連のサービス。

や行	
用語	解説
ユニバーサルデザイン	年齢や障がいの有無等に関わらず、最初からできるだけ多くの人利用可能であるようにデザインすること。
用途地域	都市計画法に基づき、都市の環境保全や利便の増進のために、建物の用途等に一定の制限を行う地域。用途地域は13種類あり、住居系は8種類、商業系は2種類、工業系は3種類に区分される。
養老町特産ブランド認証品	平成27年度より本町の魅力をPRするため、目玉となるような特産品等の発掘や開発について検討し、継続して魅力ある商品や製品を町内外へ広く販売戦略をしていく「養老町特産ブランド認証」事業。

英数字	
用語	解説
DID	人口集中地区
6次産業施設	農林漁業者（1次産業）が、生産だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組む施設。
(都)、(主)、(一)	(都)…都市計画道路 (主)…主要地方道 (一)…一般県道





## 養老町都市計画マスタープラン

養老町 産業建設部 建設課

〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田 798

TEL 0584-32-5081